



倭在韓東南大海中依山島爲居凡百餘國自武帝滅朝鮮使驛通於漢者三十許國國皆稱王世世傳統其大倭王居邪馬臺國案今名邪摩惟音之訛也

『後漢書』倭伝

倭は韓の東南大海の中にあり、山島によつて居をなしている。およそ百余國ある。武帝(前漢第七代、前一四〇―前八七在位)が朝鮮を滅ぼしてから、使訳(使者と通訳)の漢に通じるものは三十ばかりの國である。

國は、みな王を称し、世々、統を伝える。その大倭王は邪馬台國におる。

建武中元二年倭奴國奉貢朝賀使人自稱大夫倭國之極南界也光武賜以印綬安帝永初元年倭國王帥升等獻生口百六十人願請見

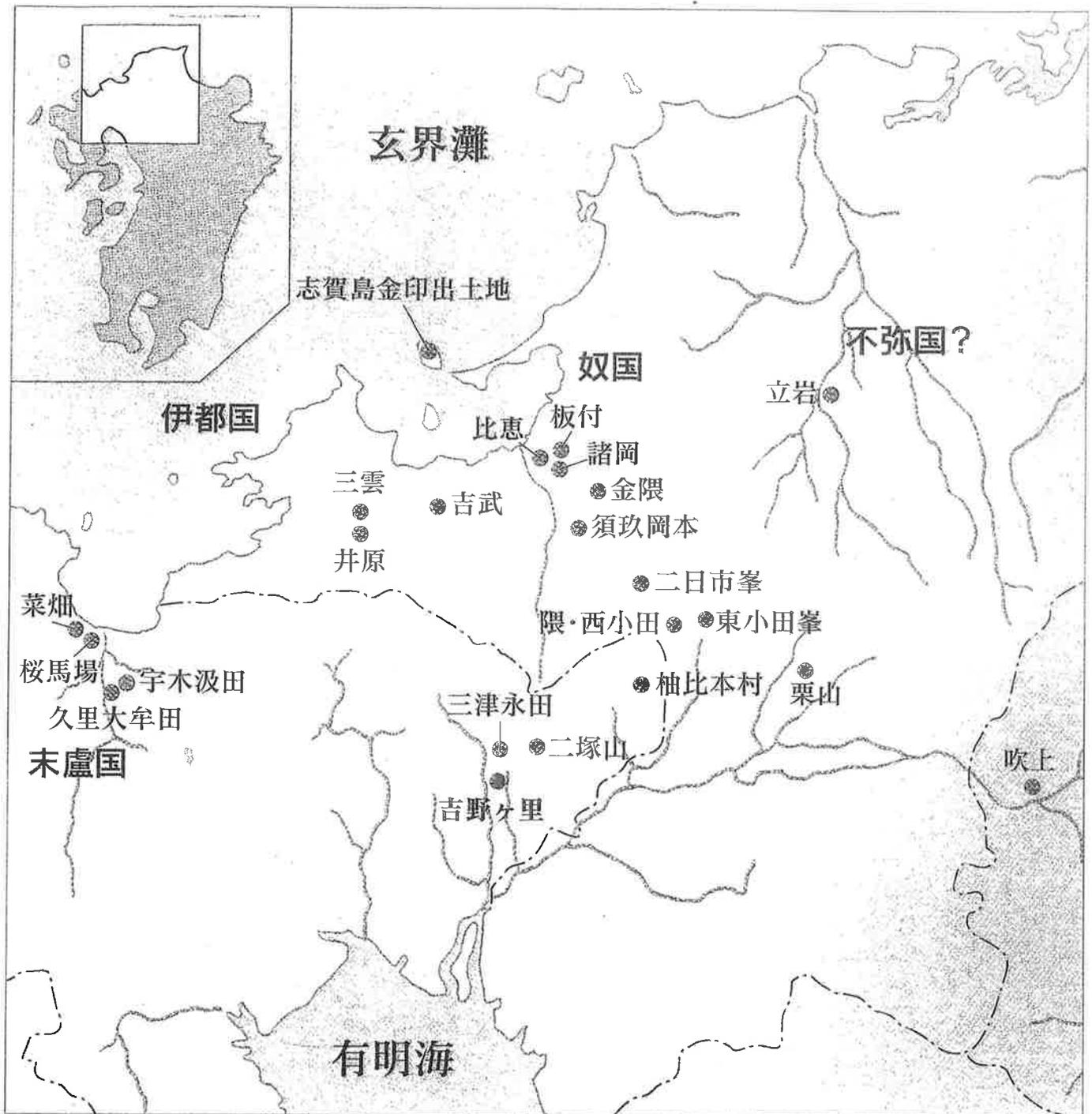
建武中元二年(光武帝、五七)、倭の奴國が貢を奉じて朝賀した。使人はみずから大夫と称した。倭國の極南界である。光武帝(後漢第一代、二五―五七在位)は印綬(金印紫綬、志賀島発見の金印「漢委奴國王」であろう)を賜うた。

安帝(後漢第六代、一〇七―一二五在位)の永初元年(一〇七)、倭の國王帥升(帥升、倭面土ヤマト説、九州イト説、委面説など)らが、生口百六十人を獻じ、請見(面会を求める)を願うた。

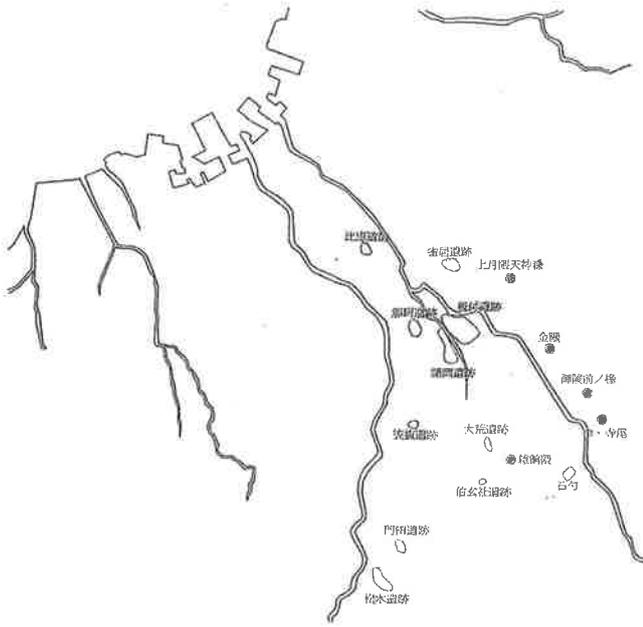
東南至奴國百里官曰咒馬觚副曰卑奴母離有二萬餘戶

東南、奴國なこくに至るには百里。官を咒馬觚しまこといい、副を卑奴母離ひなもろという。二万余戸あり。

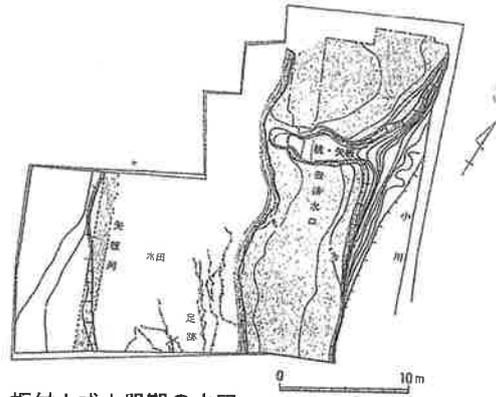
# 邪馬台国時代の北部九州のクニグニ



佐賀県教育委員会, 2003 『弥生時代の吉野ヶ里遺跡 — 集落の誕生から終焉まで —』



第1図 弥生時代 早～前期の主要な遺跡

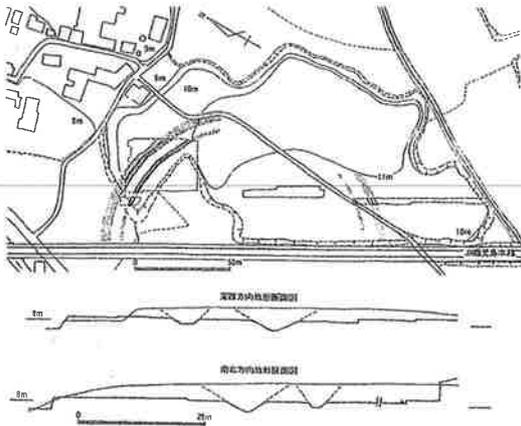


板付I式土器期の水田

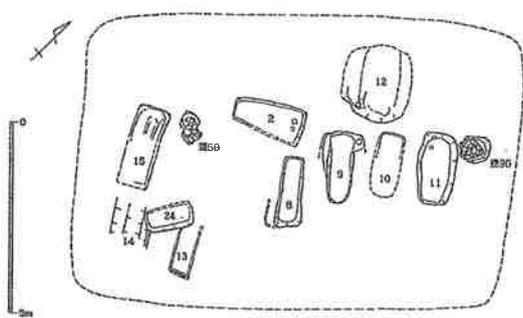


夜臼式土器期の水田

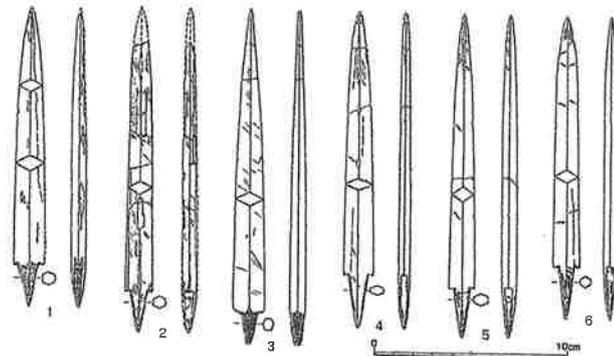
第2図 板付遺跡の水田跡



左：第3図 那珂遺跡の2重環溝



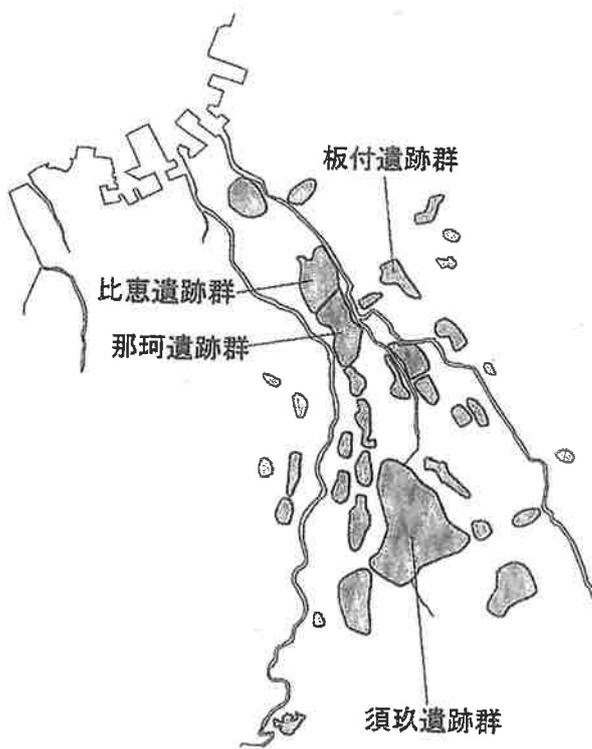
墳頂部墳墓群 (1/200)



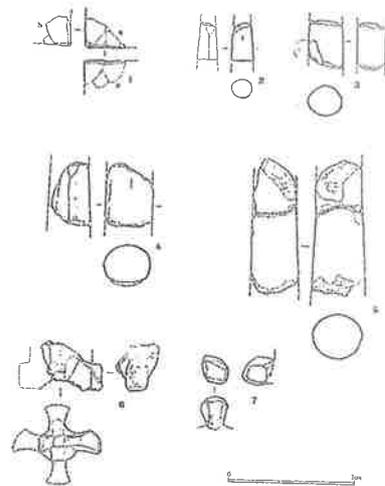
24号木棺墓出土石鏃 (1/4)

第4図 伯玄社遺跡の遺構・遺物

第19回 国民文化祭福岡実行委員会, 2004 『シンポジウム 邪馬台国の時代「奴国！」』

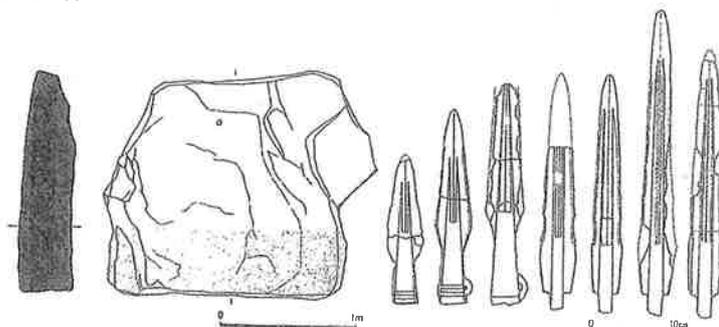


第5図 福岡平野の主要集落



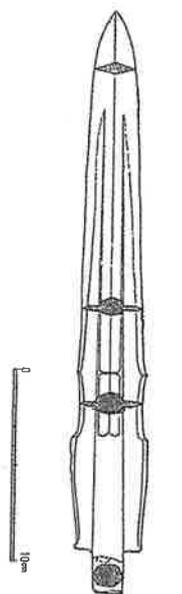
第6図 須玖タカウタ遺跡出土鑄型・中子

第7図 板付田端遺跡

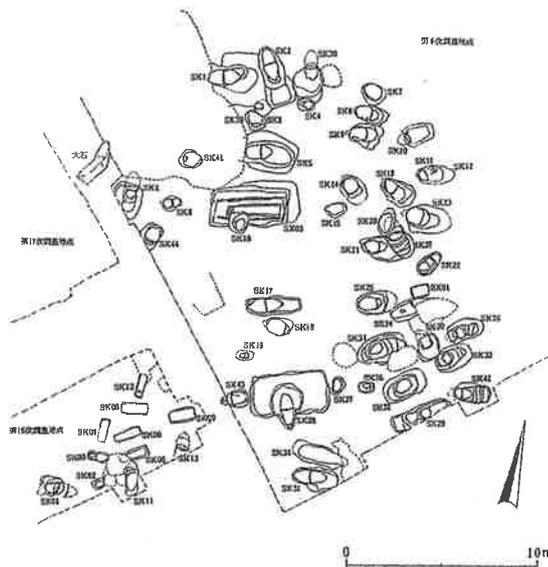


墳丘墓の上にあった大石

副葬されていた銅矛と銅剣



SK28出土銅剣



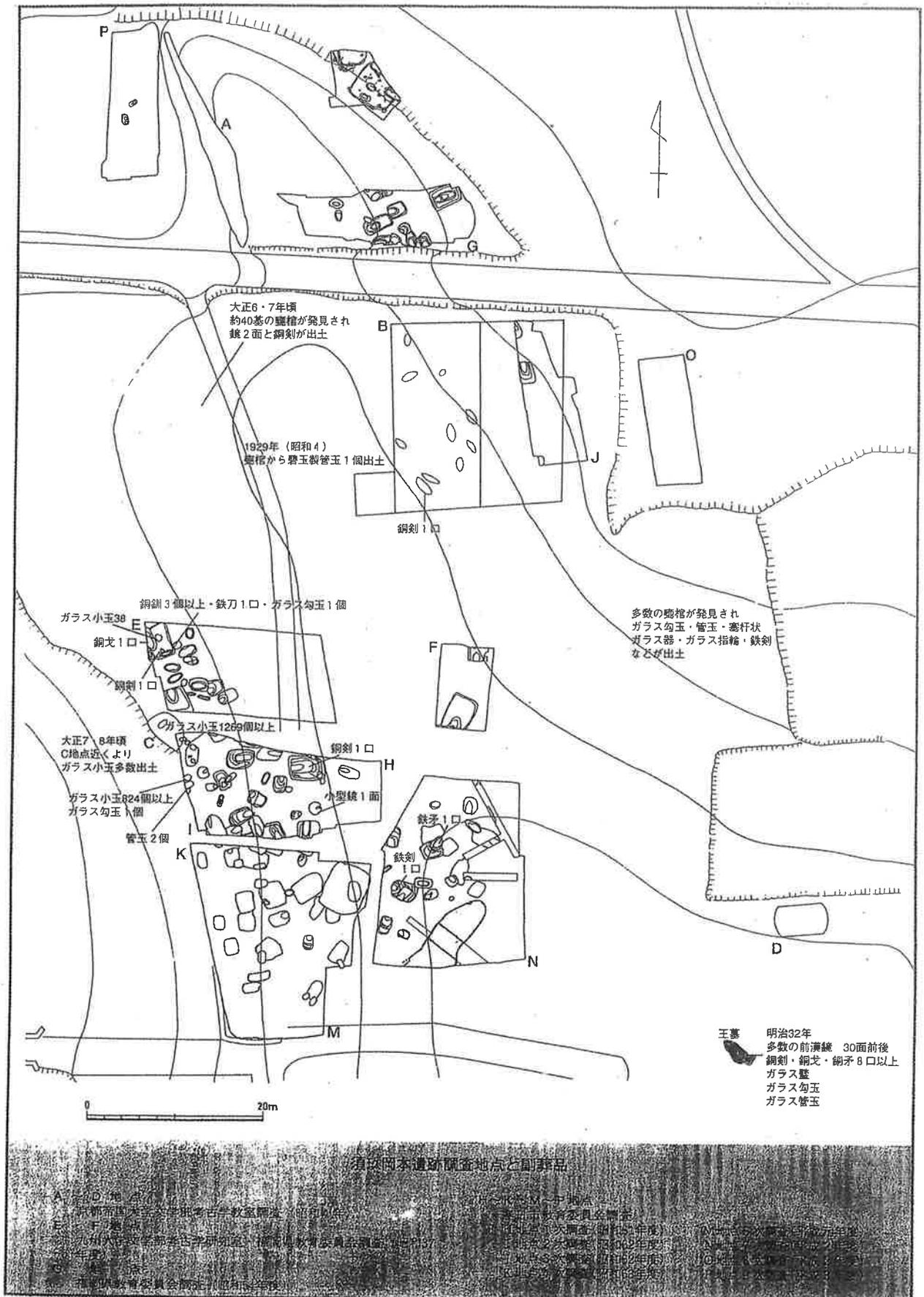
第8図 比恵遺跡の墳丘墓



ドットは甕棺墓・土壙墓  
 『筑前須玖史前遺跡の研究』『京都帝国大学文学部考古学研究报告』第一一冊をもとに作成

調査地点	調査年・主体	主な出土品
Q	一九九〇	
P	一九九二	
O	一九九〇	
N	一九九〇	鉄剣 (7号甕棺墓) 鉄矛 (12号甕棺墓)
M	一九九〇	
L	一九九〇	
K	一九八八	
J	一九八七	
I	一九八七	ガラス小玉三〇個以上 (19号甕棺墓) ガラス小玉八〇個以上・ガラス勾玉 (20号甕棺墓)
H	一九八六	銅剣 (15号甕棺墓)
G	一九七九	福岡県教育委員会
F	一九八二	
E	一九八〇	九州大学文学部考古学研究室 福岡県教育委員会 細形銅戈 (13号甕棺墓) ガラス小玉六個 (14号甕棺墓) 細形銅剣 (15号甕棺墓) 銅剣・鉄刀・ガラス勾玉 (3号土壙墓)
D	一九八〇	鏡片約二個・管玉一個
C	一九八〇	
B	一九八〇	細形銅剣 (1号甕棺墓)
A	一九八〇	京都帝国大学文学部考古学教室

須玖岡本遺跡の調査地点と出土品



福岡・須玖岡本遺跡(「ナ国」王墓とその周辺)春日市奴国の丘歴史資料館作図

第19回国民文化祭福岡実行委員会, 2004 『シンポジウム 邪馬台国の時代「4国!」』



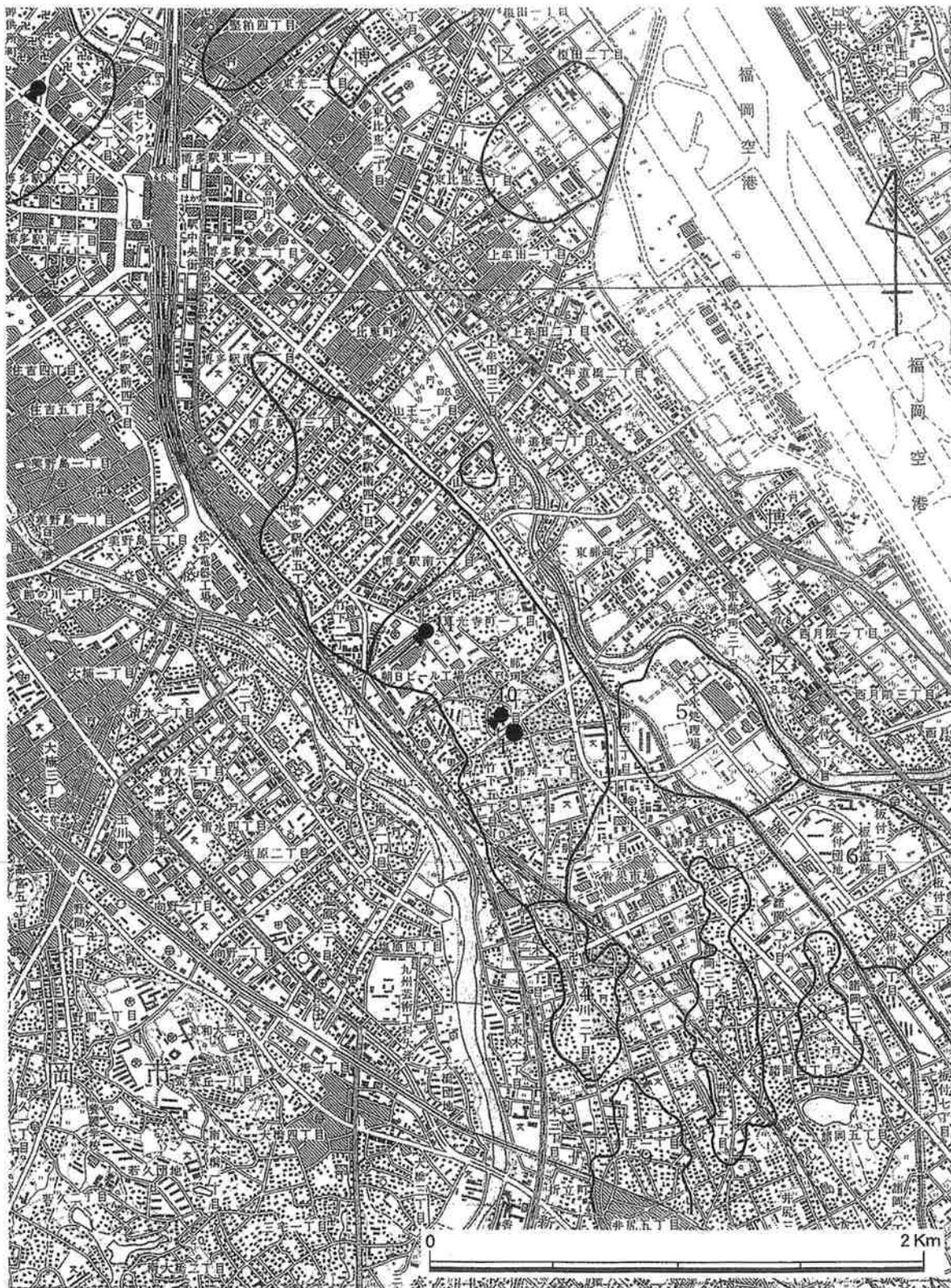
1. 比恵遺跡群 2. 那珂遺跡群 3. 那珂深才サ遺跡 4. 板付遺跡 5. 諸岡遺跡 6. 五十川高木遺跡 7. 井尻遺跡群 8. 博多遺跡群 9. 堅粕遺跡群  
 10. 吉塚遺跡群 11. 吉塚本町遺跡群 12. 福岡城 13. 三宅庵寺 14. 野多目拈渡遺跡 15. 日佐遺跡群 16. 須玖遺跡群 17. 雀居遺跡  
 A. 比恵遺跡群 第82次地点

比恵遺跡群と周辺遺跡 (1/50,000)

福岡市教育委員会, 2004 『比恵遺跡群 37』 『福岡市埋蔵文化財調査報告書』 第832集



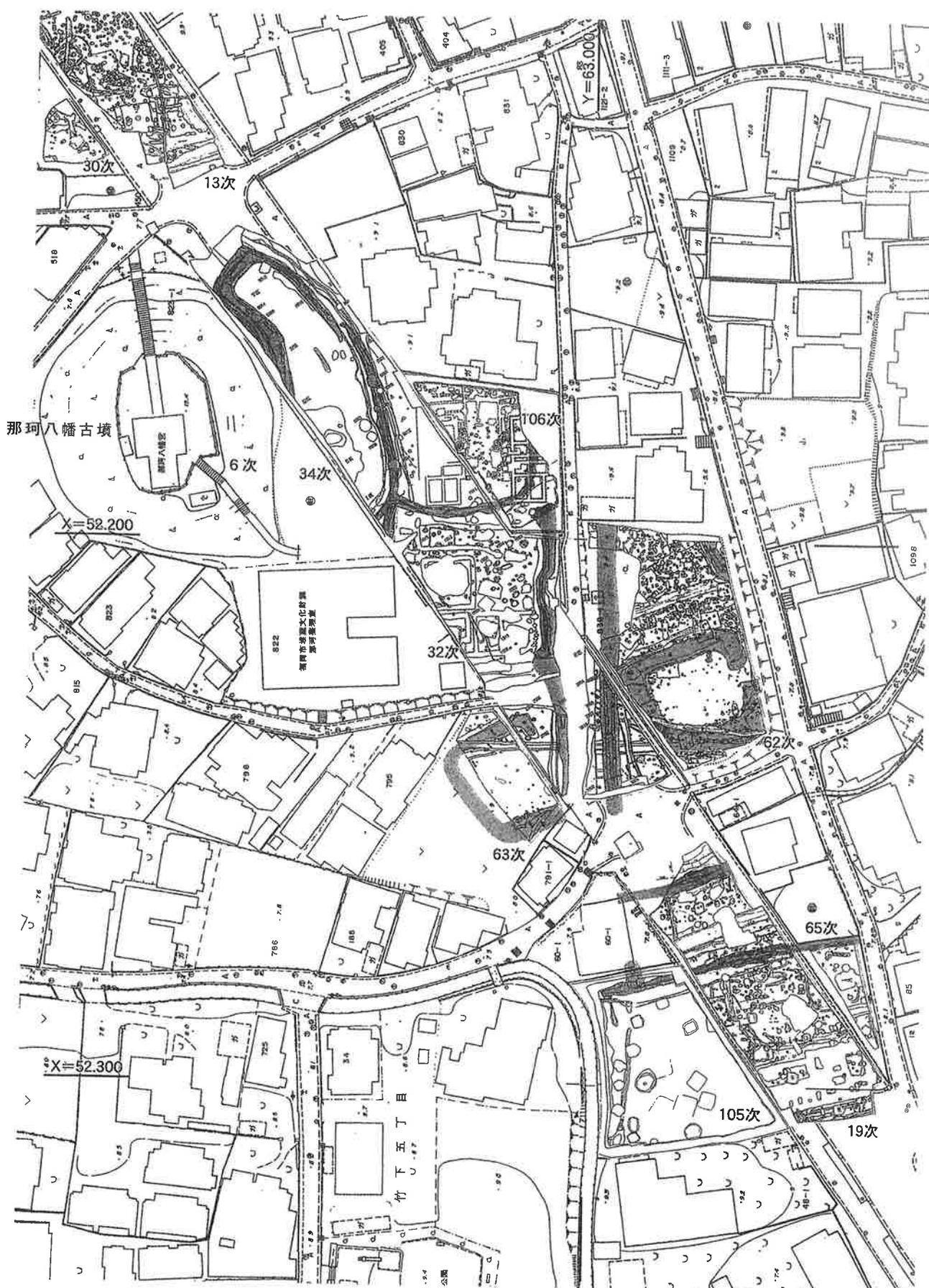
調査区位置図



- |               |            |            |            |
|---------------|------------|------------|------------|
| 1. 第 106 次調査区 | 2. 那珂遺跡群   | 3. 比恵遺跡群   | 4. 五十川遺跡   |
| 5. 那珂君休遺跡     | 6. 板付遺跡    | 7. 諸岡 A 遺跡 | 8. 諸岡 B 遺跡 |
| 9. 井尻 B 遺跡    | 10. 那珂八幡古墳 | 11. 剣塚古墳   |            |

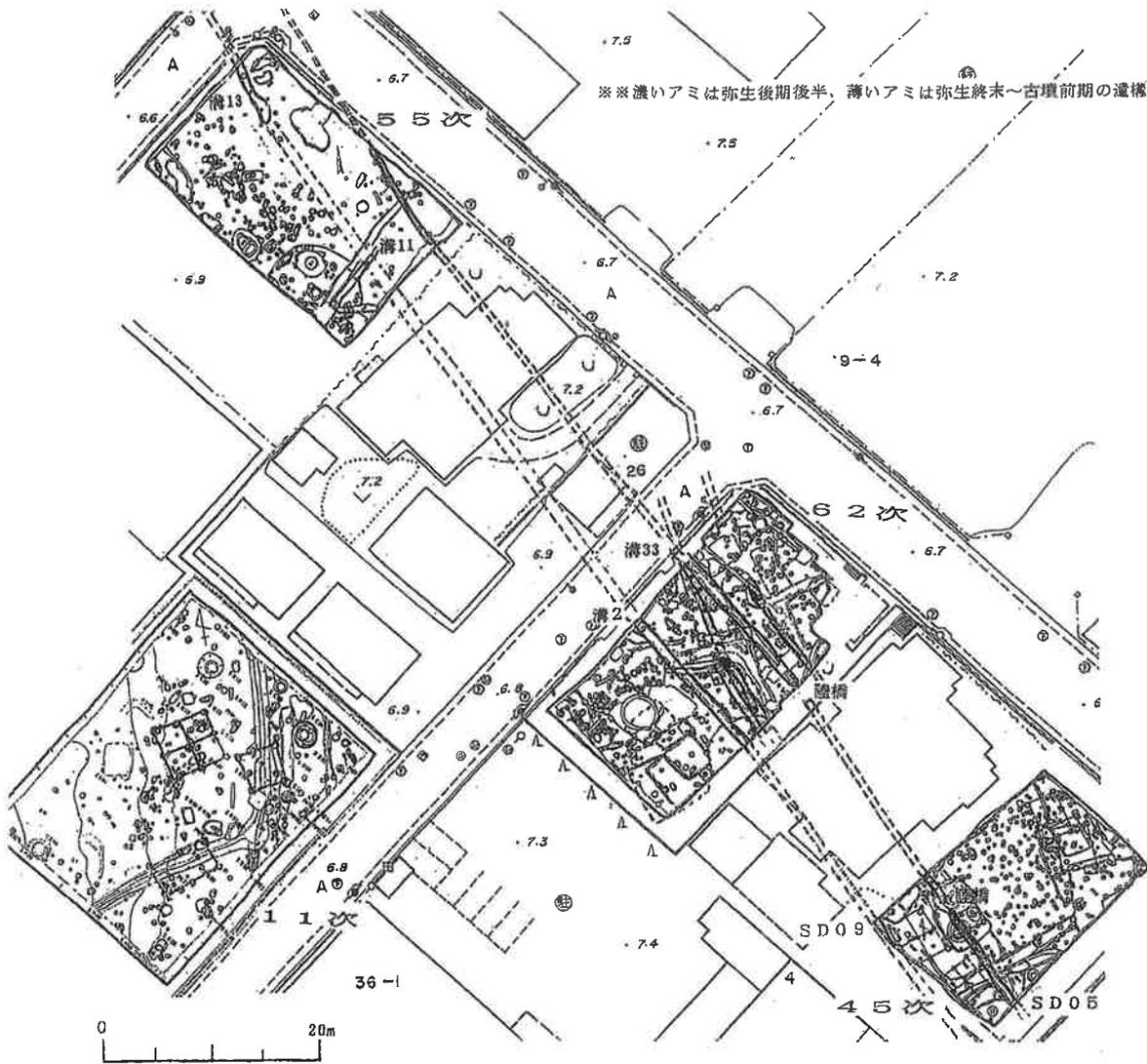
周辺遺跡分布図 (1/25,000)

福岡市教育委員会, 2006 『那珂 43』 『福岡市埋蔵文化財 調査報告書』 第 889 集

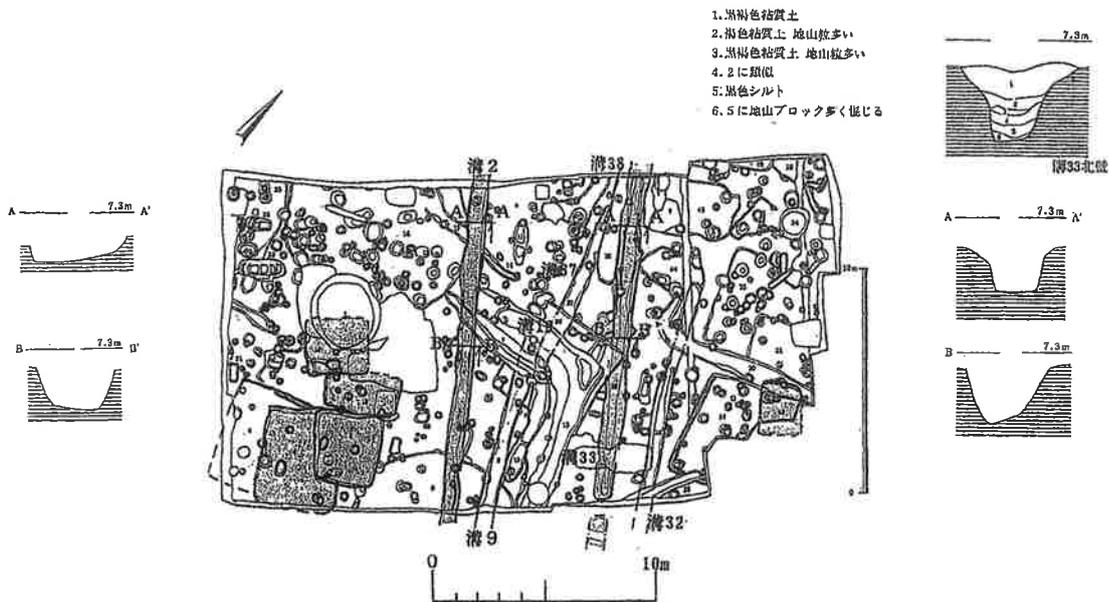


第106次調査区周辺遺構状況図 (1/1,000)

(濃いアミは中世後期溝)  
(薄いアミは方形周溝墓)



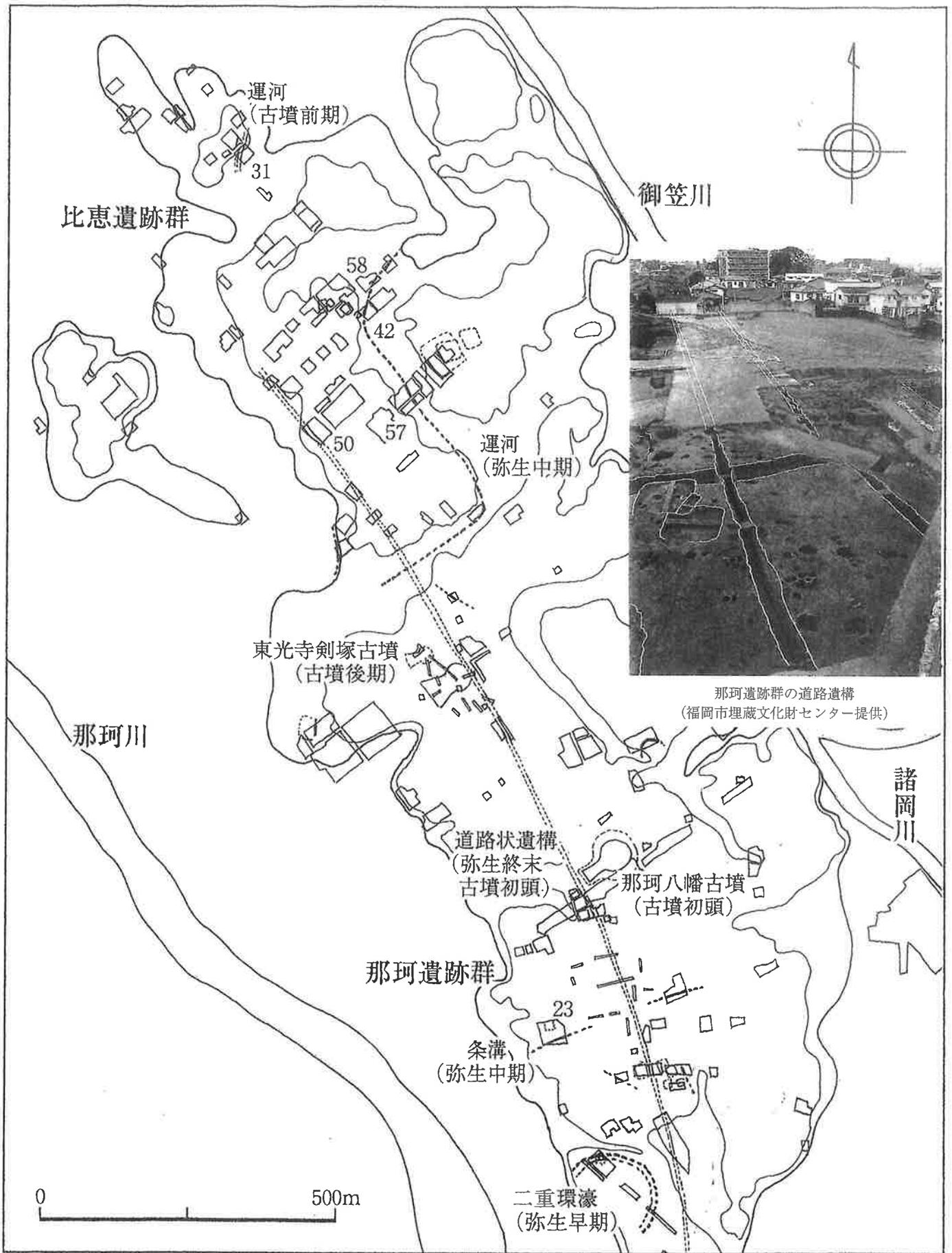
第1図 比恵55・62・45次調査区関係図



第2図 比恵62次調査区平面図

・溝断面図

※報告書より転載 薄いアミは弥生後期後半、濃いアミは弥生終末～古墳前期



## 比恵・那珂遺跡群全体図

吉岡秀敏、2004「集落・居館・都市的遺跡と生活用具—九州」『考古資料大観』第10巻、小学館



(那珂川町)

- 1. 安徳台遺跡群
- 2. 安徳銅矛出土地
- 3. 宗石遺跡群

(春日市)

- 4. 大谷遺跡
- 5. 門田遺跡群
- 6. 須玖岡本遺跡群
- 7. 寺田池北遺跡

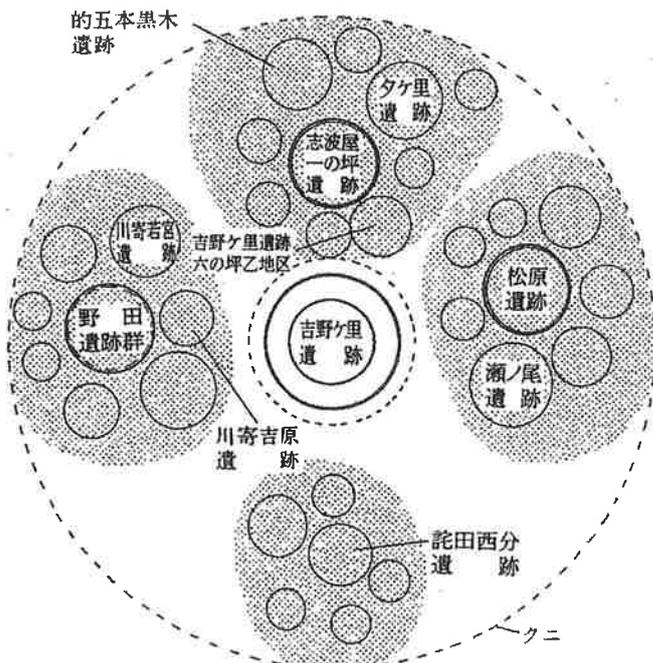
(大野城市)

- 8. 仲島遺跡群

(福岡市)

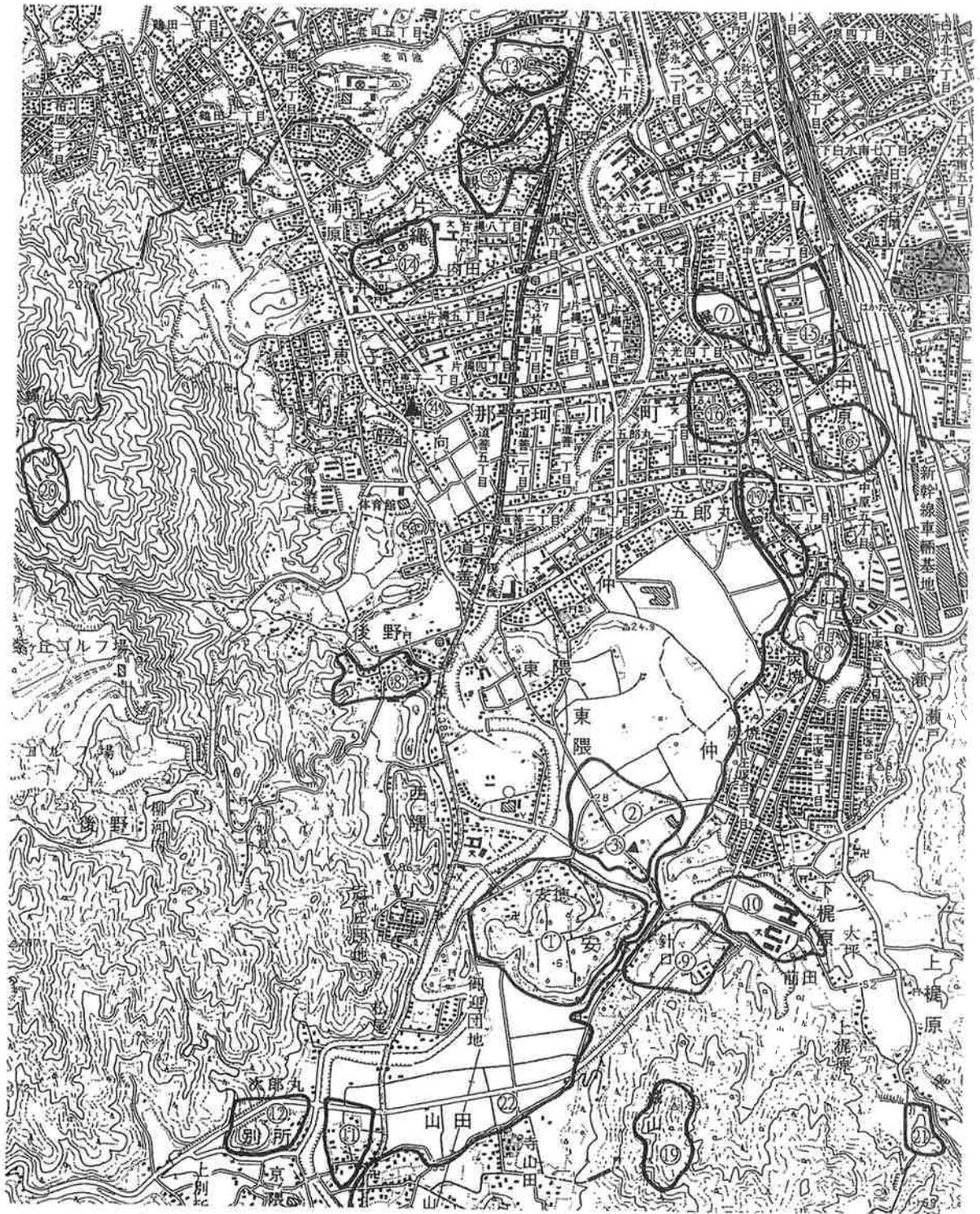
- 9. 比恵遺跡群
- 10. 那珂遺跡群
- 11. 上月隈遺跡
- 12. 宝台遺跡

安徳台遺跡周辺の弥生時代中ごろの遺跡



弥生時代のクニの模式図

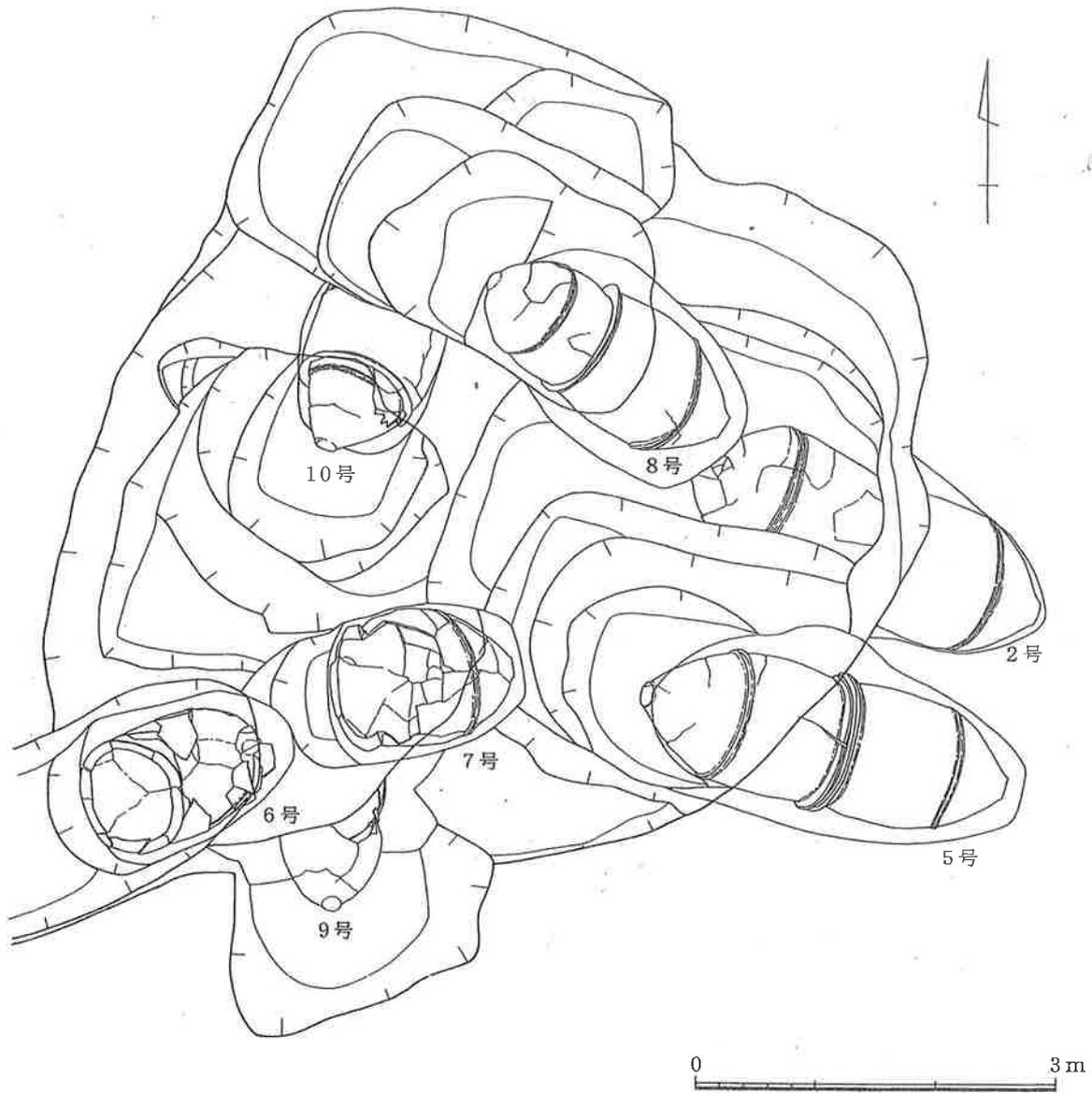
高島忠平 1993 「吉野ヶ里」『岩波講座 日本通史 第2巻 古代1』岩波書店より



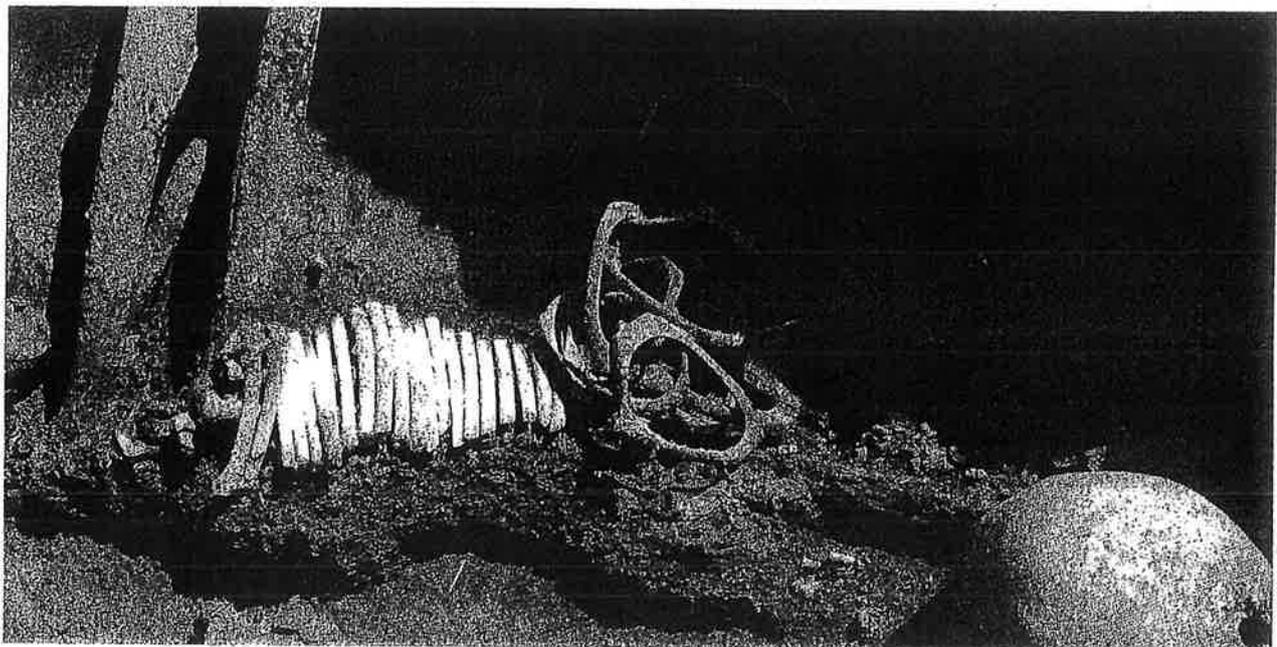
周辺遺跡分布図 (1/25000)

- |            |              |               |
|------------|--------------|---------------|
| 1 安徳台遺跡群   | 9 龍頭遺跡群      | 17 合政遺跡群      |
| 2 安徳原田遺跡群  | 10 平蔵遺跡群     | 18 カクチガ遺跡群    |
| 3 安徳銅鉾出土地  | 11 山田西遺跡群    | 19 岩門城        |
| 4 恵子銅鉾出土地  | 12 別所・次朗丸遺跡群 | 20 後野・山ノ神前遺跡群 |
| 5 観音堂遺跡群   | 13 野口遺跡群     | 21 地別当遺跡群     |
| 6 中原塔ノ元遺跡群 | 14 城ノ越遺跡     | 22 裂田溝        |
| 7 宗石遺跡群    | 15 中原・ヒナ夕遺跡群 |               |
| 8 坂口遺跡群    | 16 松木遺跡群     |               |

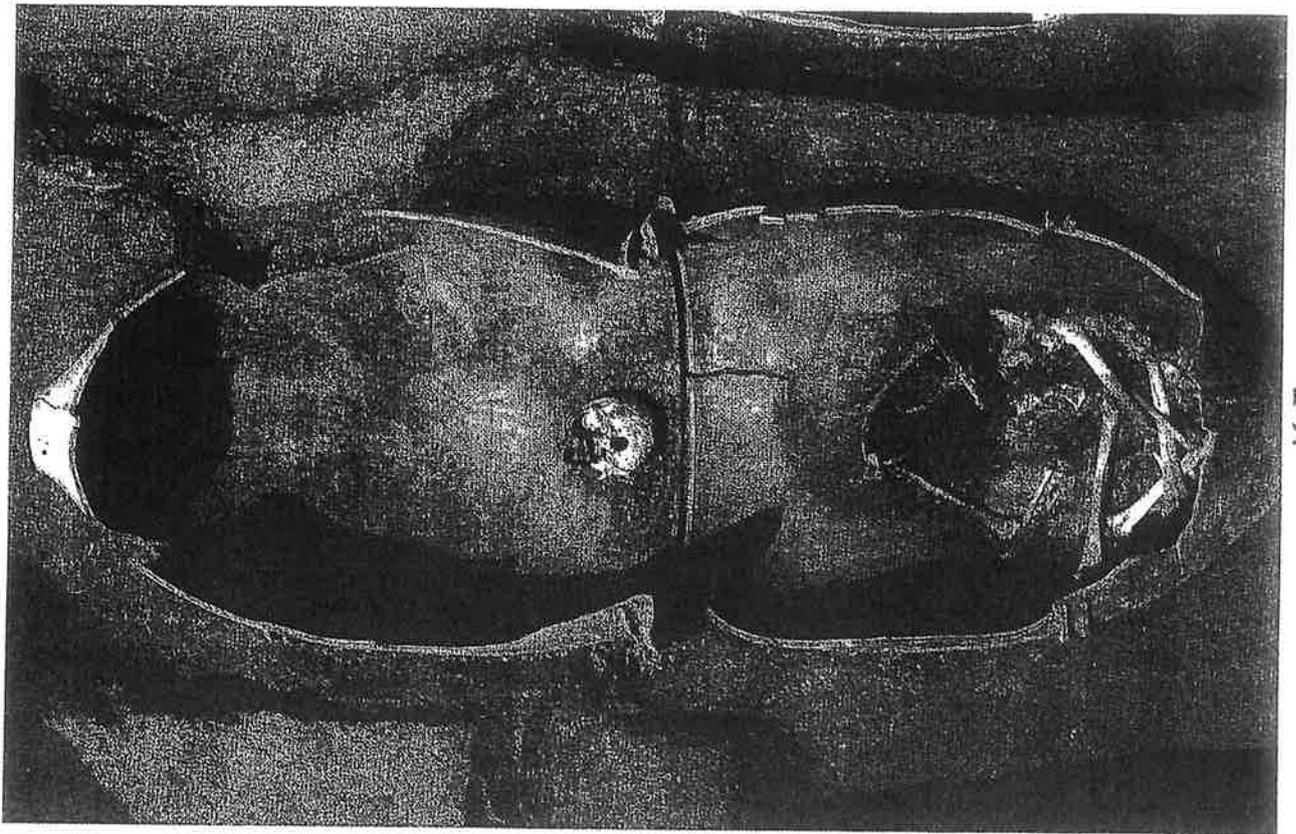
茂和敏, 2006 『安徳台遺跡群』 『那珂川町文化財調査報告書』 第67集



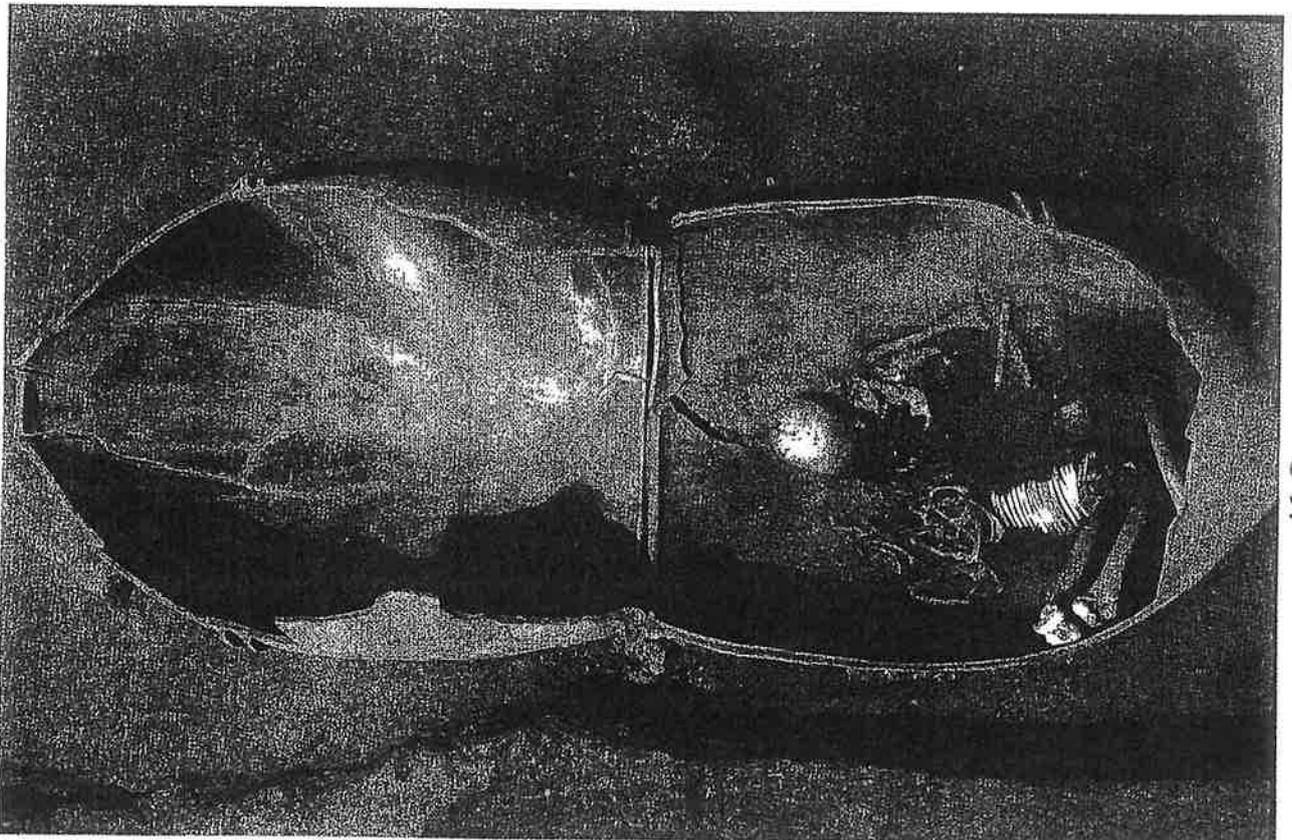
K 2・5～10 配置図 (1/60)



K2貝輪出土状態



K5



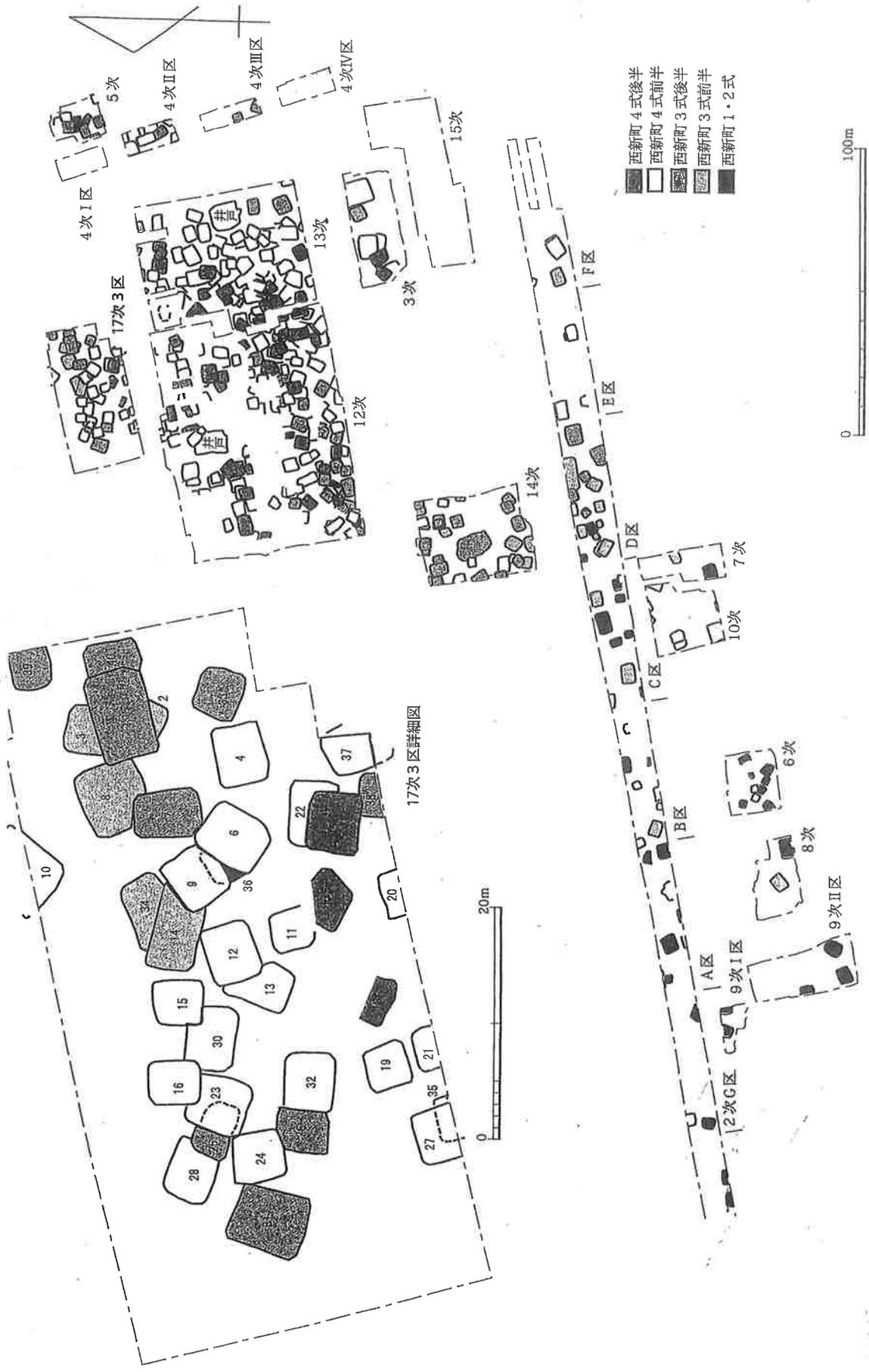
K2



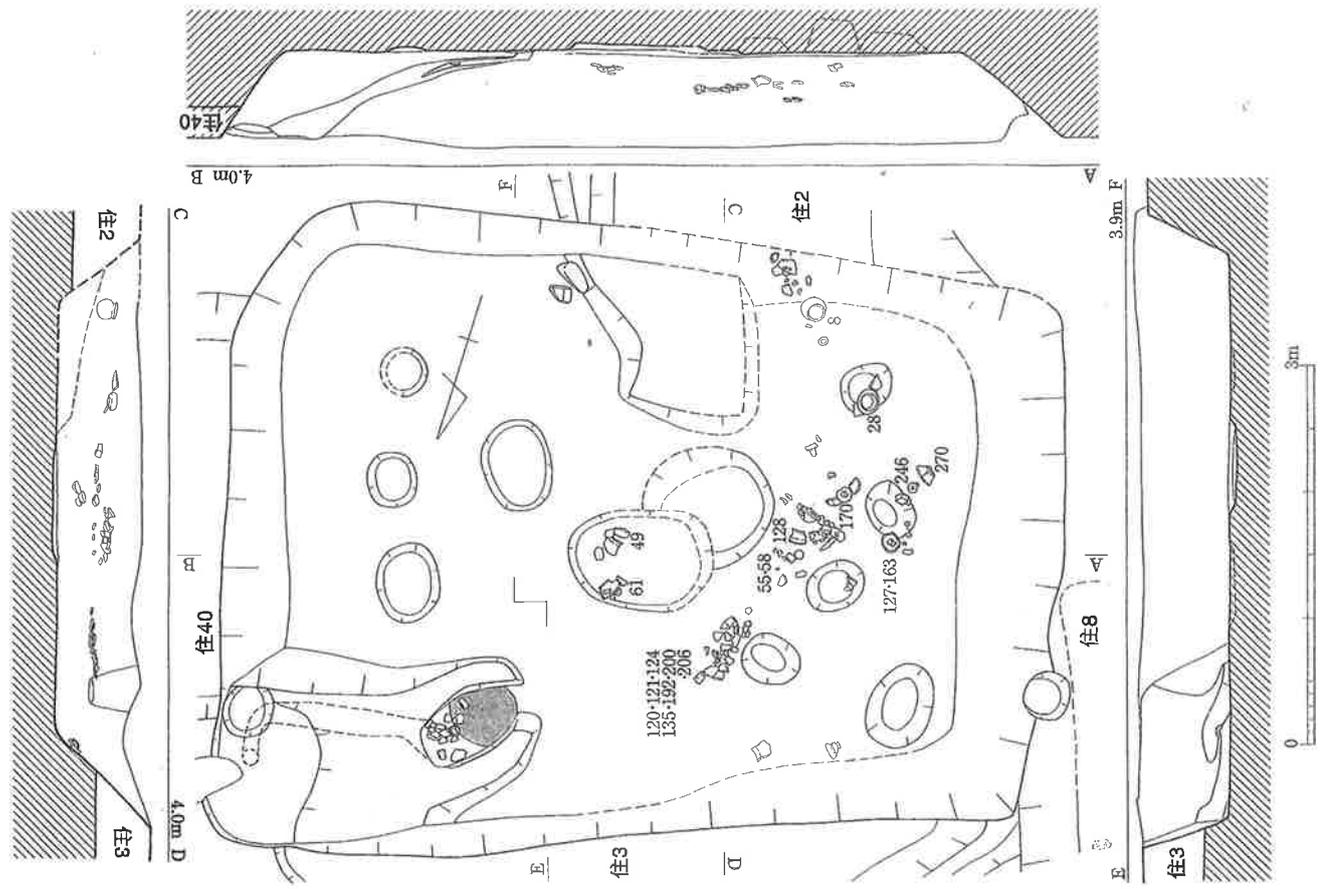
- |             |             |            |            |            |
|-------------|-------------|------------|------------|------------|
| 1. 西新町遺跡    | 8. 拾六町ツイシ遺跡 | 15. 野方中原遺跡 | 22. 重留遺跡   | 29. 大谷古墳群  |
| 2. 藤崎遺跡     | 9. 橋本一丁目遺跡  | 16. 羽根戸古墳群 | 23. 東入部遺跡  | 30. 倉瀬戸古墳群 |
| 3. 元寇防塁     | 10. 有田遺跡    | 17. 吉武遺跡群  | 24. 重留古墳群  | 31. 鳥越古墳群  |
| 4. 西血山竊跡推定地 | 11. 原遺跡     | 18. 田村遺跡   | 25. 野芥遺跡   | 32. 能古虎竊跡  |
| 5. 東血山竊跡推定地 | 12. 飯倉遺跡群   | 19. 金武遺跡群  | 26. 山崎古墳群  |            |
| 6. 姪浜遺跡     | 13. 梅林古墳    | 20. 都地遺跡   | 27. クエゾノ遺跡 |            |
| 7. 五島山古墳    | 14. 野方久保遺跡  | 21. 西箇遺跡群  | 28. 七隈古墳群  |            |

西新町遺跡と周辺の遺跡 (1/50,000) (破線は縄文海進ピーク時の海岸線)

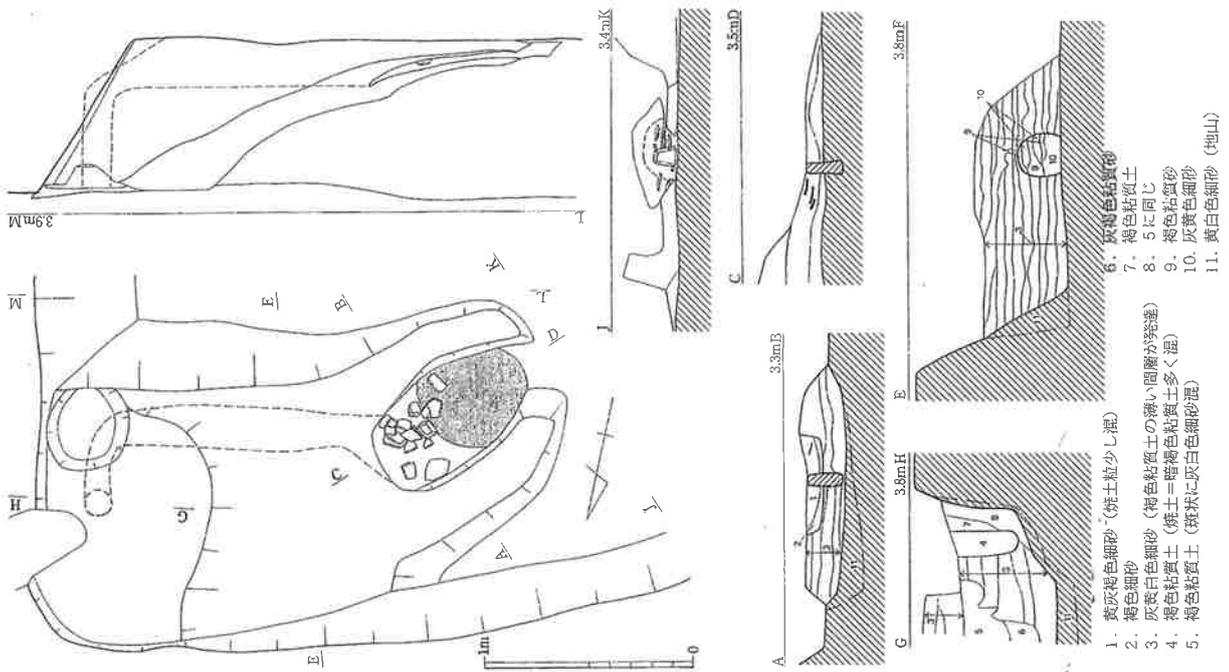
重藤輝行, 2006『西新町遺跡 VII』『福岡県文化財調査報告書』第208集



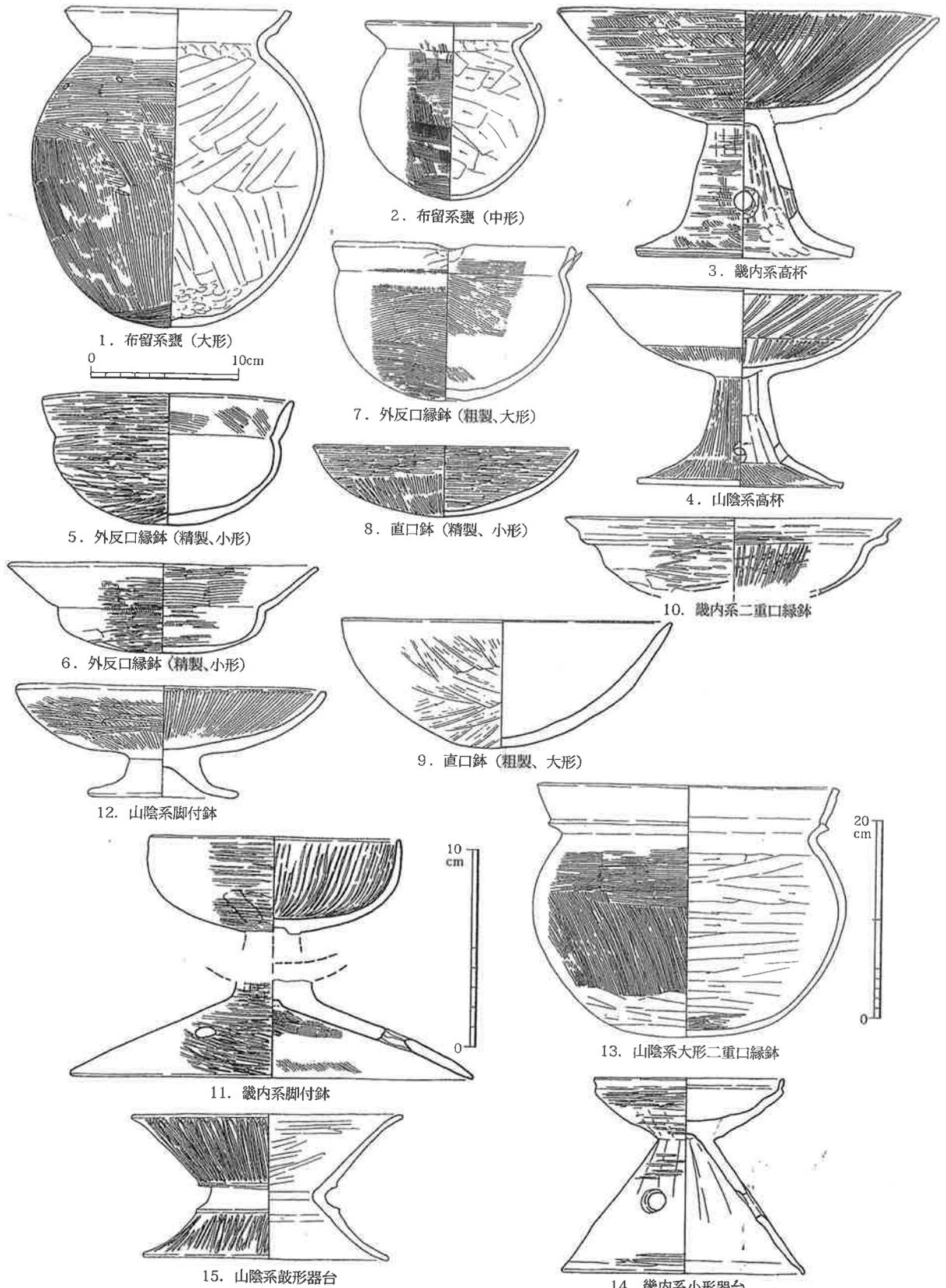
西新町遺跡における竪穴住居跡変遷図（全体は 1 / 2000、17 次細部は 1 / 500）



1号竪穴住居跡実測図 (1/60)

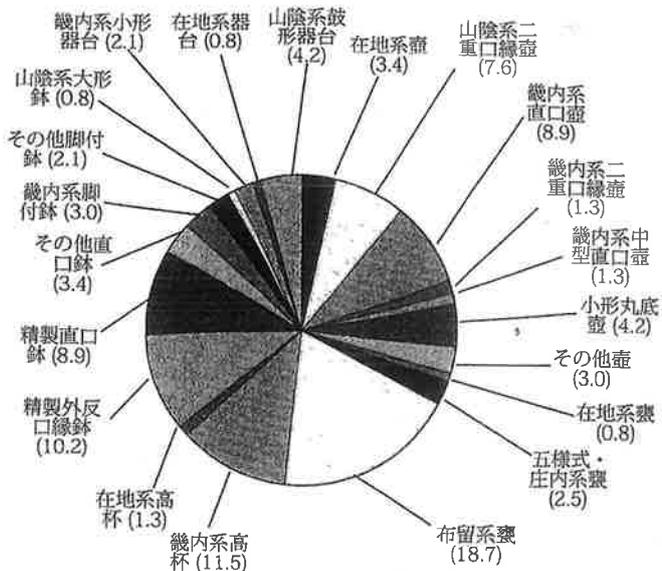


1号竪穴住居跡カマド実測図

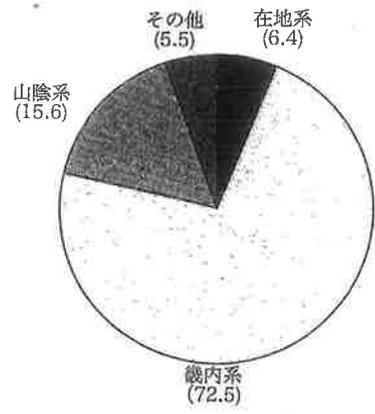


1. 12次139住62    2. 12次119住42    3. 12次122住32    4. 12次21住46    5. 12次147住27  
6. 12次42住6    7. 12次86住39    8. 12次139住62    9. 12次139住82    10. 12次121住34  
11. 12次155住25・12次144住25    12. 12次86住14    13. 12次65住39    14. 12次37住26  
15. 12次97住118 (1・2・15は1/4、13は1/6、他は1/3)

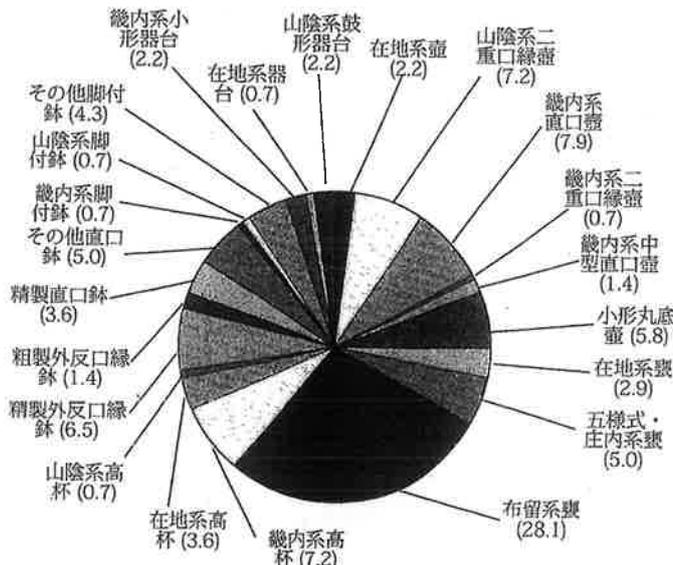
西新町遺跡土師器の器種分類



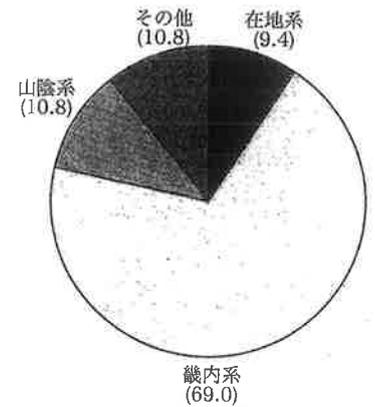
1. 1号竖穴住居跡



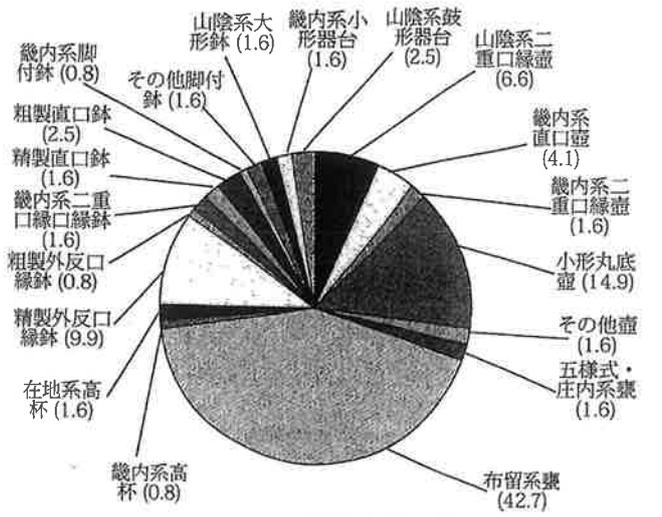
1. 1号竖穴住居跡



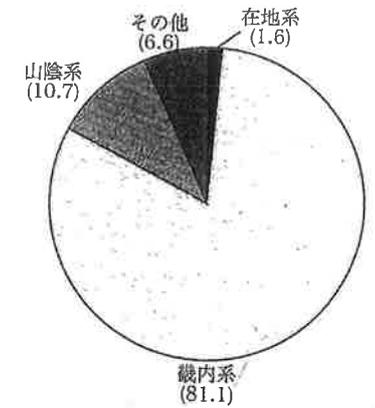
2. 9号竖穴住居跡



2. 9号竖穴住居跡



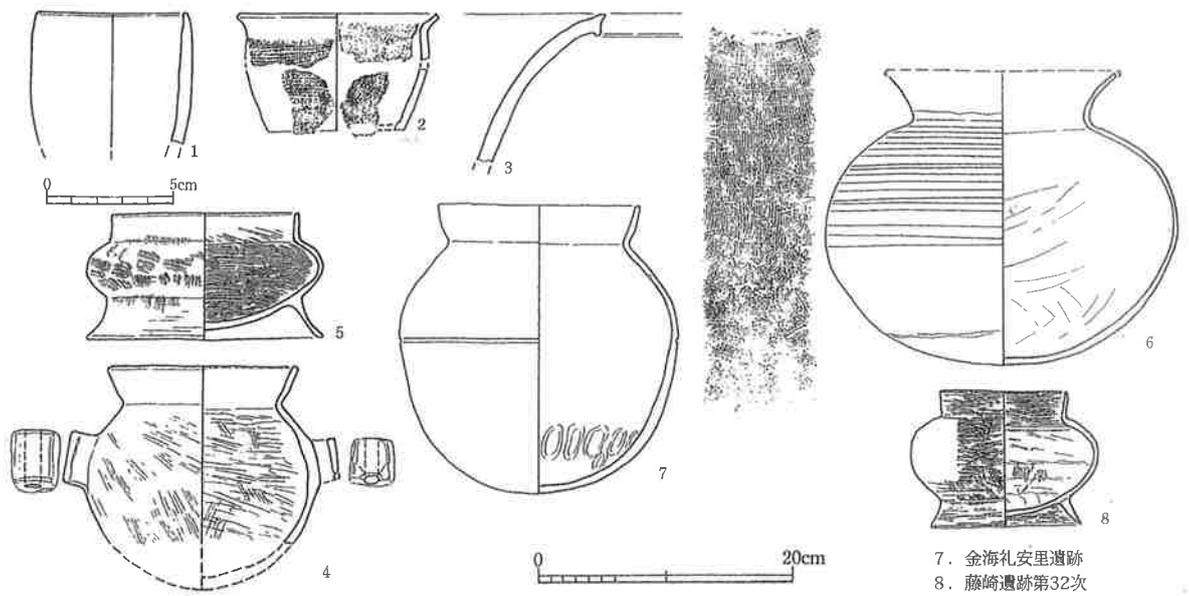
3. 37号竖穴住居跡



3. 37号竖穴住居跡

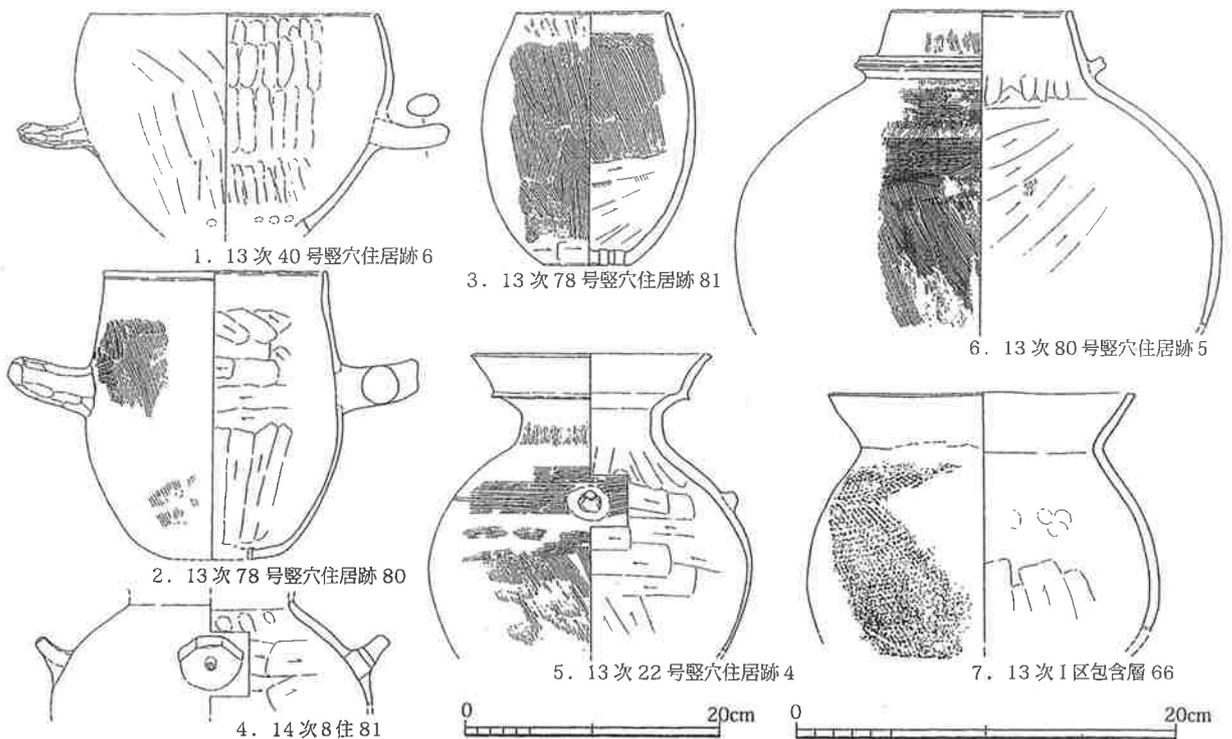
1・9・37号  
竖穴住居跡出土土器の各系  
統別比率 (数値は%)

1・9・37号竖穴住居跡出土土器  
の器種構成比率 (数値は%)



7. 金海礼安里遺跡  
8. 藤崎遺跡第32次

西新町遺跡 17 次調査出土朝鮮半島系土器 (1 / 6)



1. 13 次 40 号竪穴住居跡 6

3. 13 次 78 号竪穴住居跡 81

6. 13 次 80 号竪穴住居跡 5

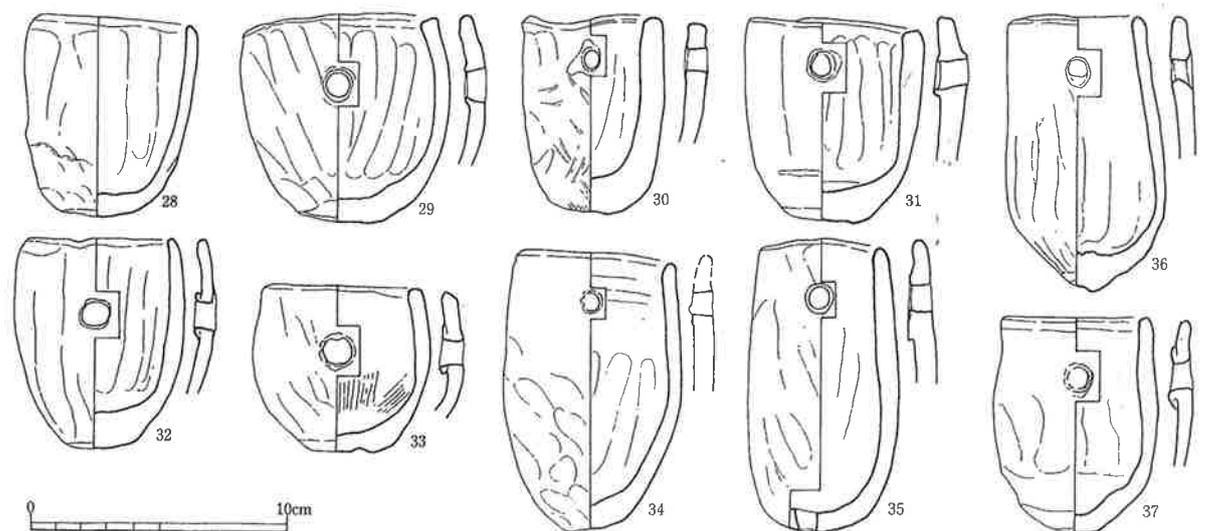
2. 13 次 78 号竪穴住居跡 80

5. 13 次 22 号竪穴住居跡 4

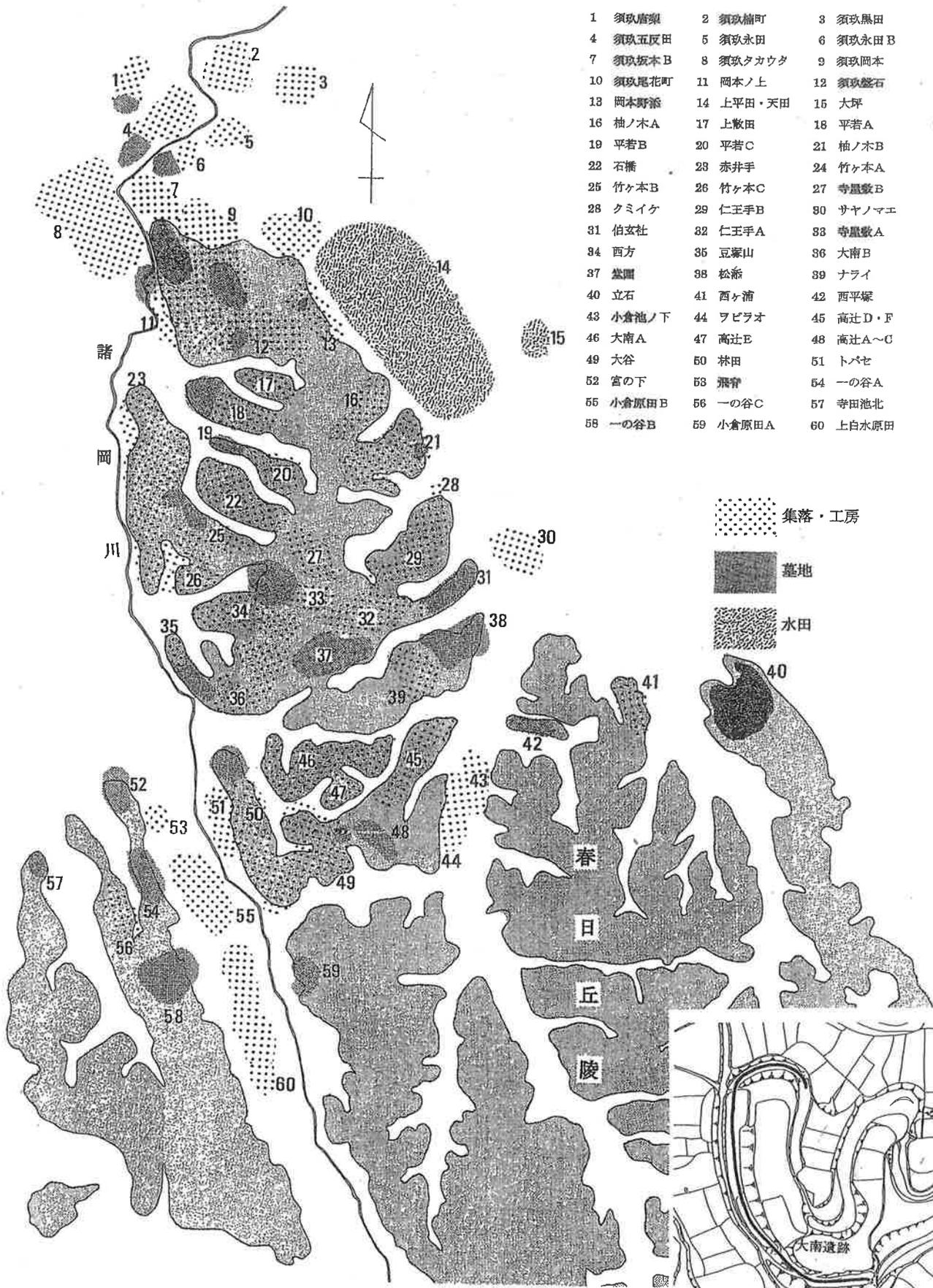
7. 13 次 I 区包含層 66

4. 14 次 8 住 81

西新町遺跡における朝鮮半島系土器の模倣土器・折衷土器 (7 は 1 / 4、他は 1 / 6)



2 号竪穴住居跡出土土器実測図 (2) (1 / 3)



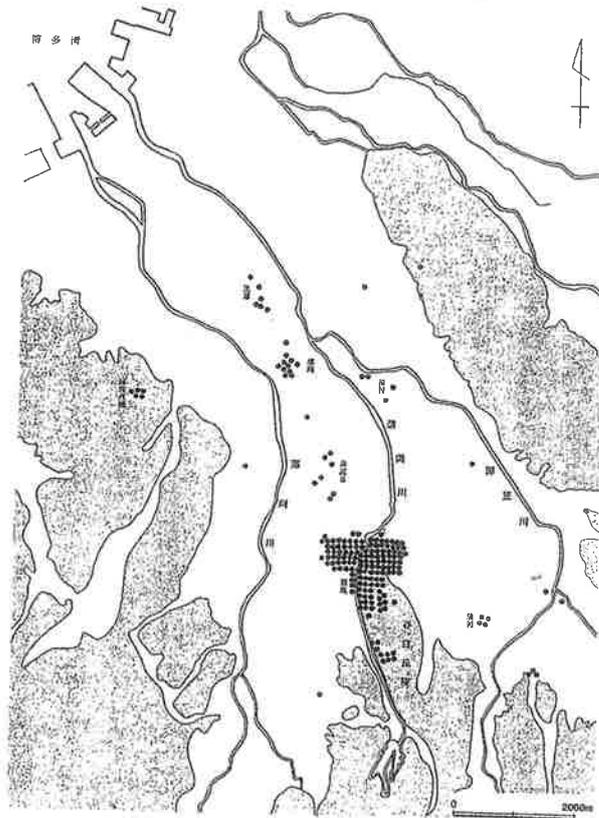
- |          |           |          |
|----------|-----------|----------|
| 1 須玖唐梨   | 2 須玖楠町    | 3 須玖黒田   |
| 4 須玖五反田  | 5 須玖永田    | 6 須玖永田B  |
| 7 須玖坂本B  | 8 須玖タカウタ  | 9 須玖岡本   |
| 10 須玖尾花町 | 11 岡本ノ上   | 12 須玖磁石  |
| 13 岡本野添  | 14 上平田・天田 | 15 大坪    |
| 16 柚ノ木A  | 17 上敷田    | 18 平若A   |
| 19 平若B   | 20 平若C    | 21 柚ノ木B  |
| 22 石橋    | 23 赤井手    | 24 竹ヶ本A  |
| 25 竹ヶ本B  | 26 竹ヶ本C   | 27 寺屋敷B  |
| 28 クミイケ  | 29 仁王手B   | 30 サヤノマエ |
| 31 伯女社   | 32 仁王手A   | 33 寺屋敷A  |
| 34 西方    | 35 豆塚山    | 36 大南B   |
| 37 盤圃    | 38 松糸     | 39 ナライ   |
| 40 立石    | 41 西ヶ浦    | 42 西平塚   |
| 43 小倉池ノ下 | 44 フビラオ   | 45 高辻D・F |
| 46 大南A   | 47 高辻E    | 48 高辻A〜C |
| 49 大谷    | 50 林田     | 51 トバセ   |
| 52 宮の下   | 53 飛脊     | 54 一の谷A  |
| 55 小倉原田B | 56 一の谷C   | 57 寺田池北  |
| 58 一の谷B  | 59 小倉原田A  | 60 上白水原田 |

- 集落・工房
- 墓地
- 水田

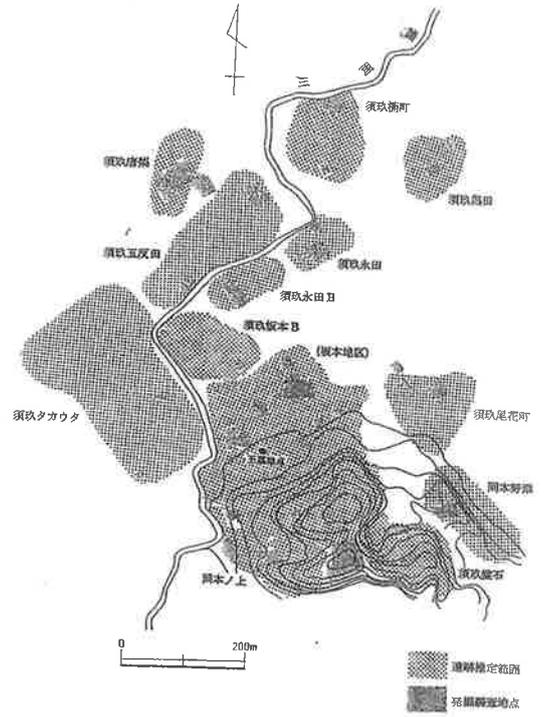
須玖遺跡群

第19回国民文化祭福岡県実行委員会, 2004  
『シンポジウム 邪馬台国の時代「又国！」』

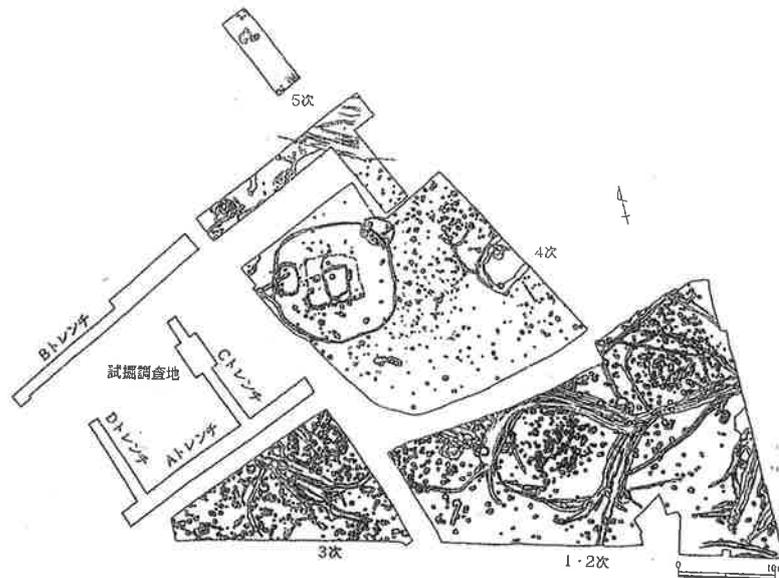




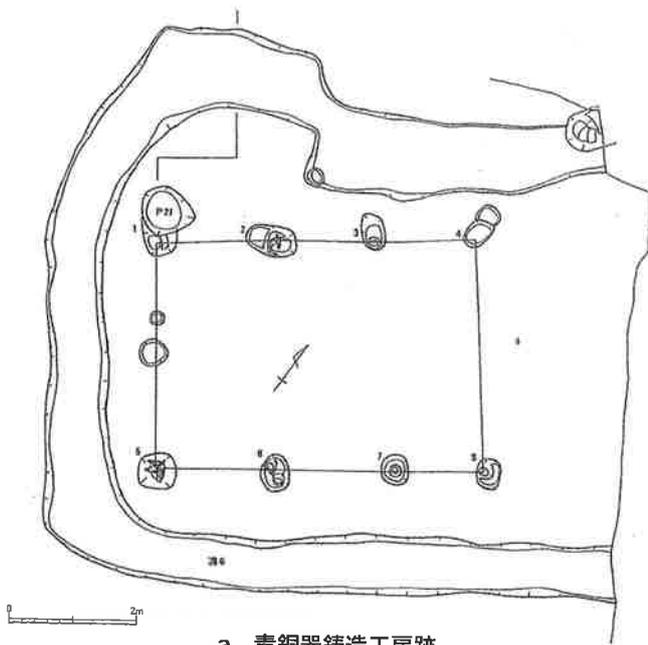
福岡平野における青銅器鋳型分布図



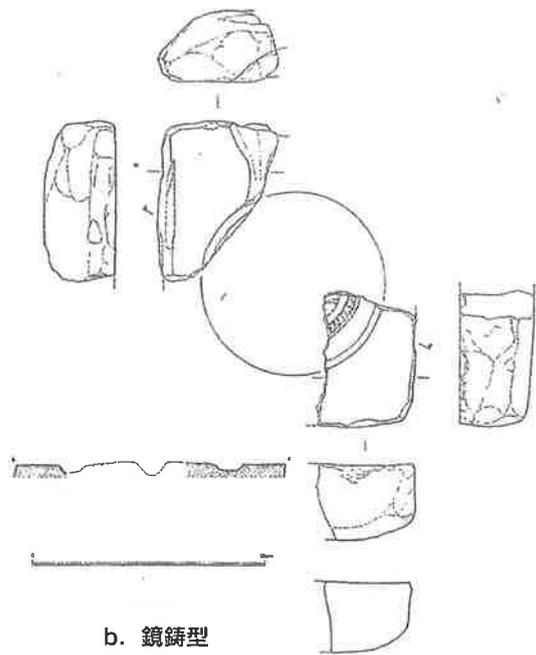
須玖遺跡群北端部工房群



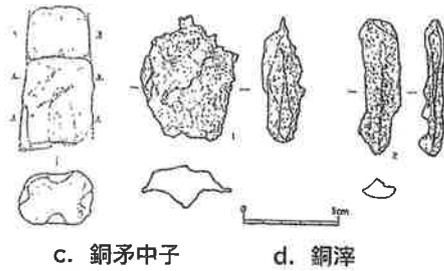
須玖岡本遺跡坂本地区



a. 青銅器鑄造工房跡

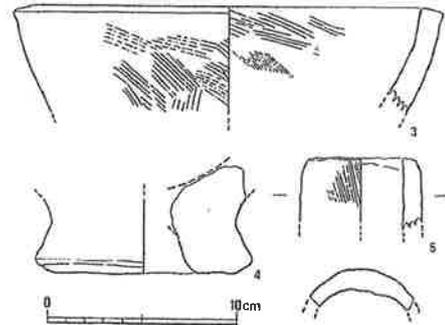


b. 鏡鑄型



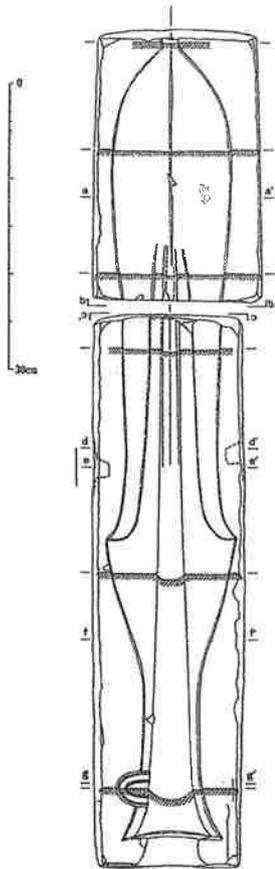
c. 銅矛中子

d. 銅滓

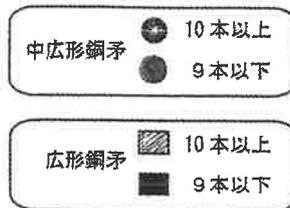


e. 埴埴/取瓶と鞆羽口

須玖永田遺跡の遺構と遺物

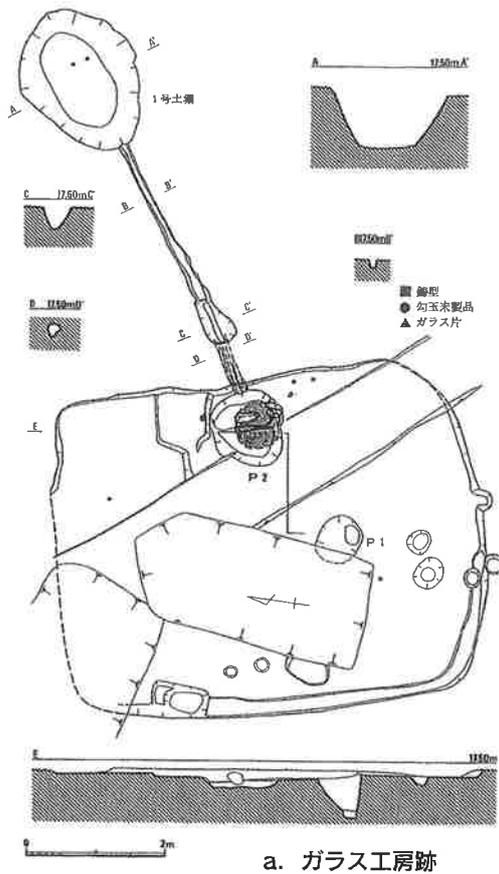


皇后峯出土銅矛鑄型

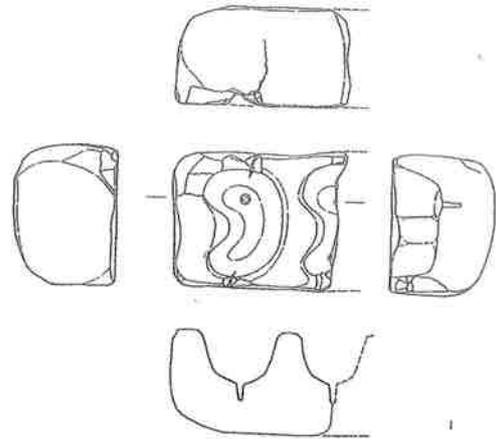


中広形・広形銅矛出土分布図

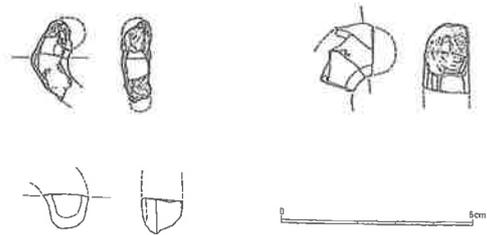
第19回国民文化祭福岡県実行委員会, 2004『シンポジウム 邪馬台国の時代「奴国」』



a. ガラス工房跡

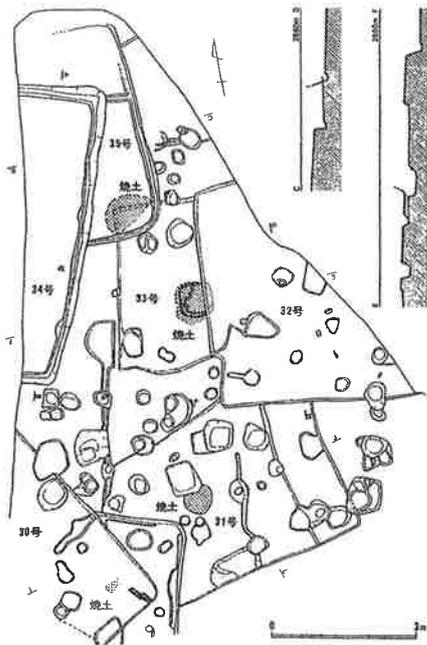


b. 勾玉鑄型

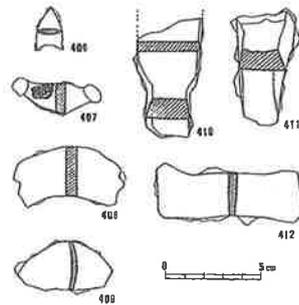


c. ガラス勾玉未成品

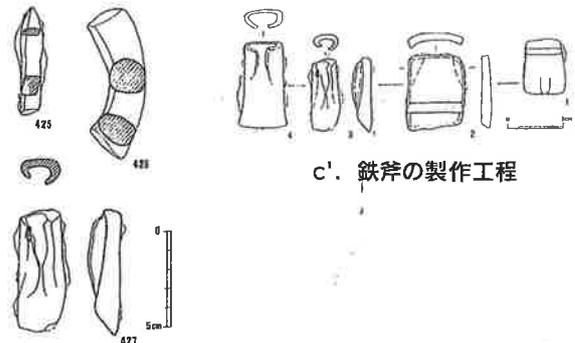
須玖五反田遺跡の遺構と遺物



a. 鍛冶工房跡

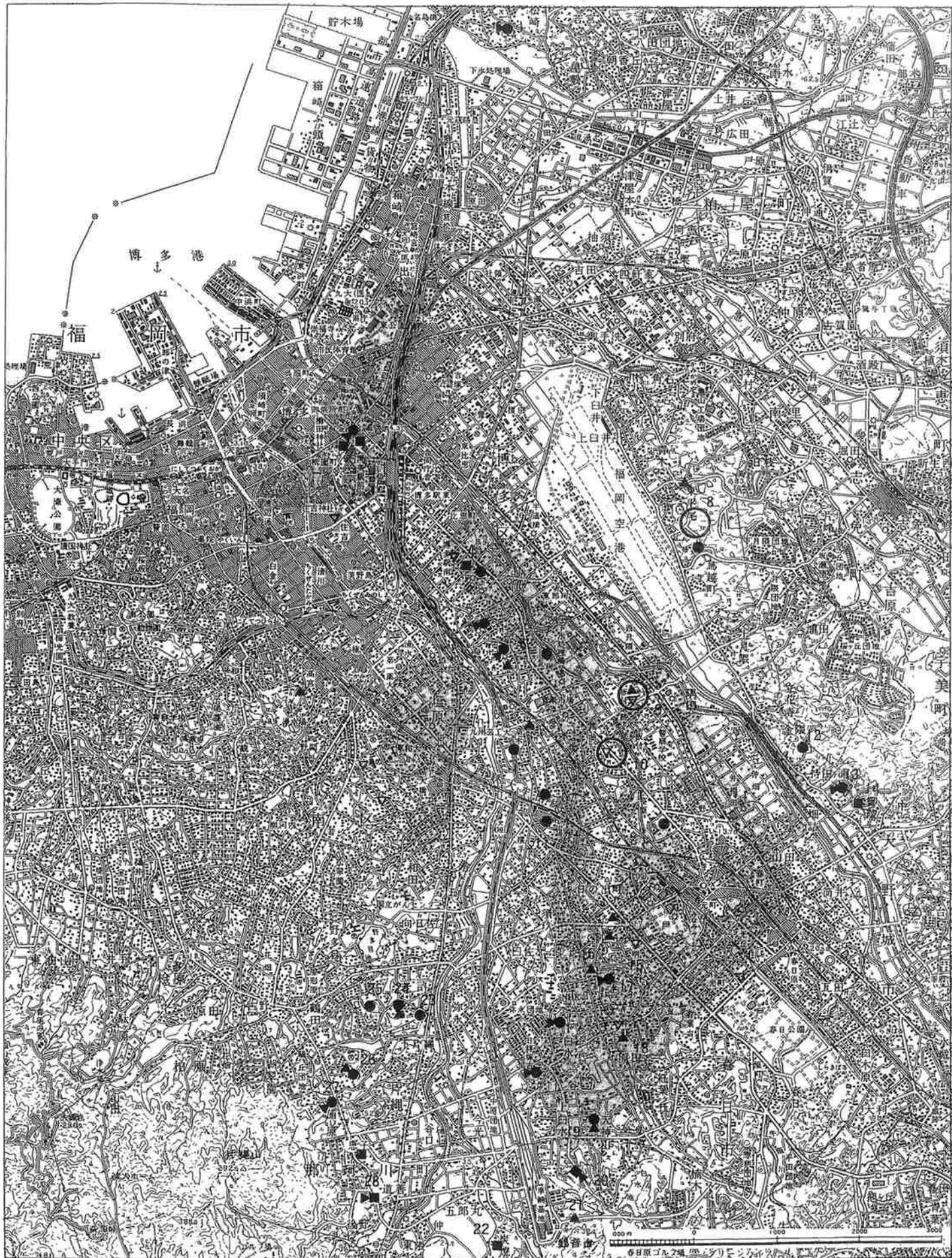


b. 33号住居跡出土鉄製品



c. 5号土坑出土鉄製品

赤井手遺跡の遺構と遺物



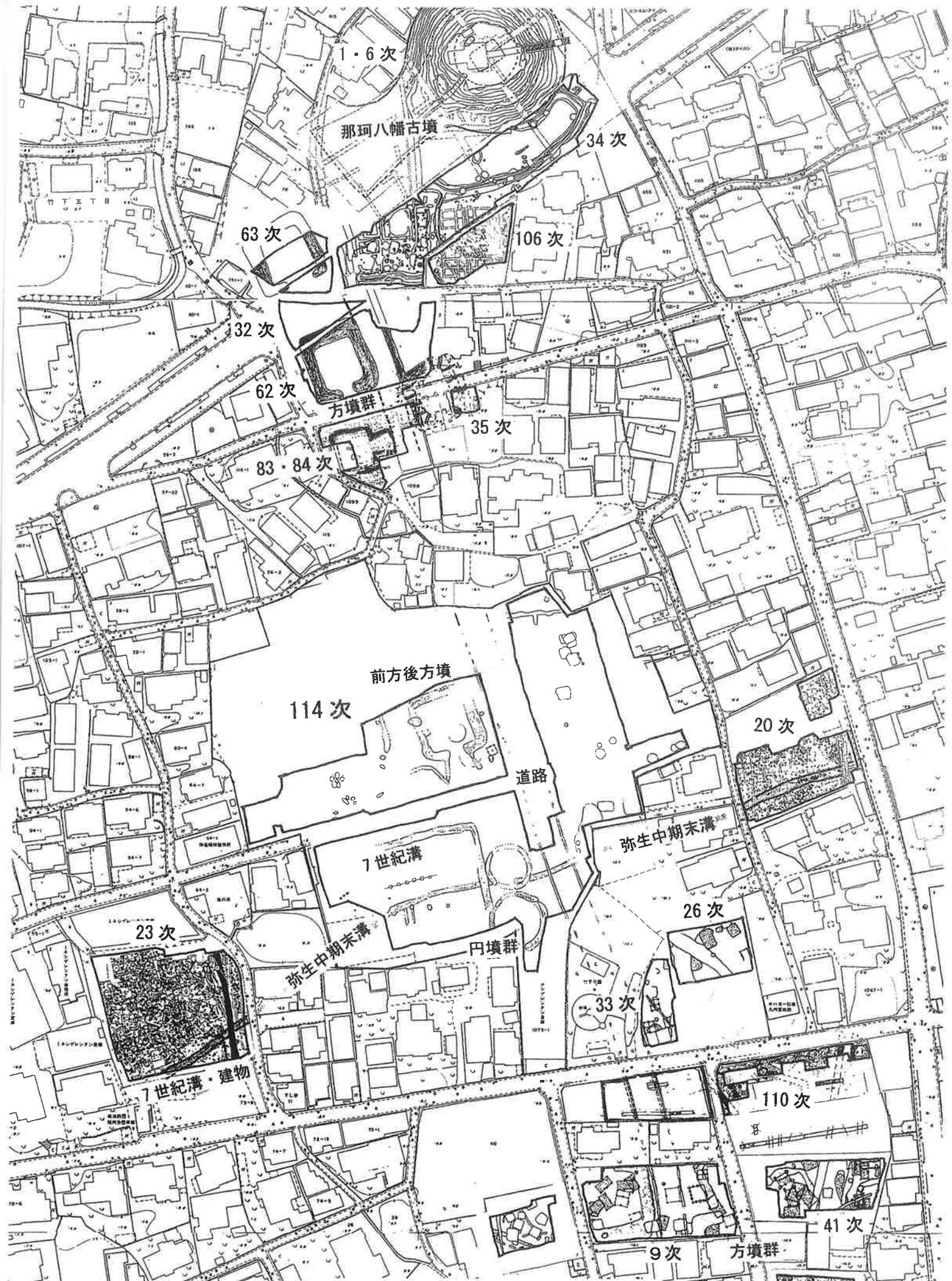
周辺遺跡分布図 (縮尺1/70,000)

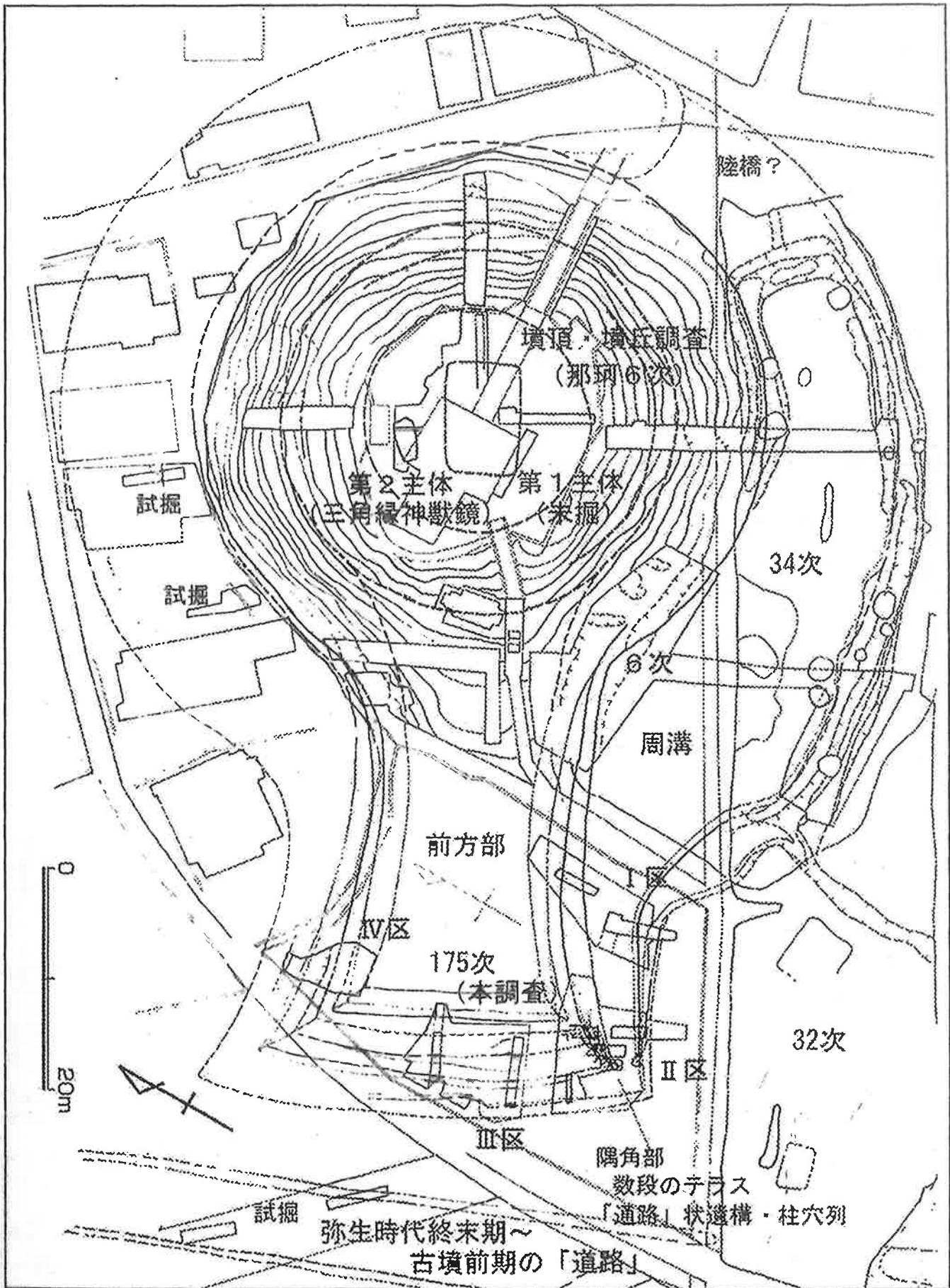
- 前方後円墳
- 前方後方墳
- 方形周溝墓他
- ▲ 青銅器熔范出土地
- ▽ 青銅器出土地
- その他の遺跡

- |            |            |                 |
|------------|------------|-----------------|
| 1. 名島古墳    | 9. 板付遺跡    | 17. 竹ヶ本古墳       |
| 2. 博多一号墳   | 10. 諸岡遺跡   | 18. 大南遺跡        |
| 3. 博多遺跡    | 11. 井尻遺跡   | 19. 天神山古墳       |
| 4. 比恵遺跡    | 12. 金隈遺跡   | 20. ウトロ古墳       |
| 5. 那珂剣塚古墳  | 13. 今里大塚古墳 | 21. 観音山中厚 I-1号墳 |
| 6. 那珂八幡古墳  | 14. 御陵古墳   | 22. 炭焼古墳群       |
| 7. 那珂深アサ遺跡 | 15. 須玖岡本遺跡 | 23. 老松神社古墳群     |
| 8. 席田遺跡    | 16. 赤井手遺跡  | 24. 老司古墳        |

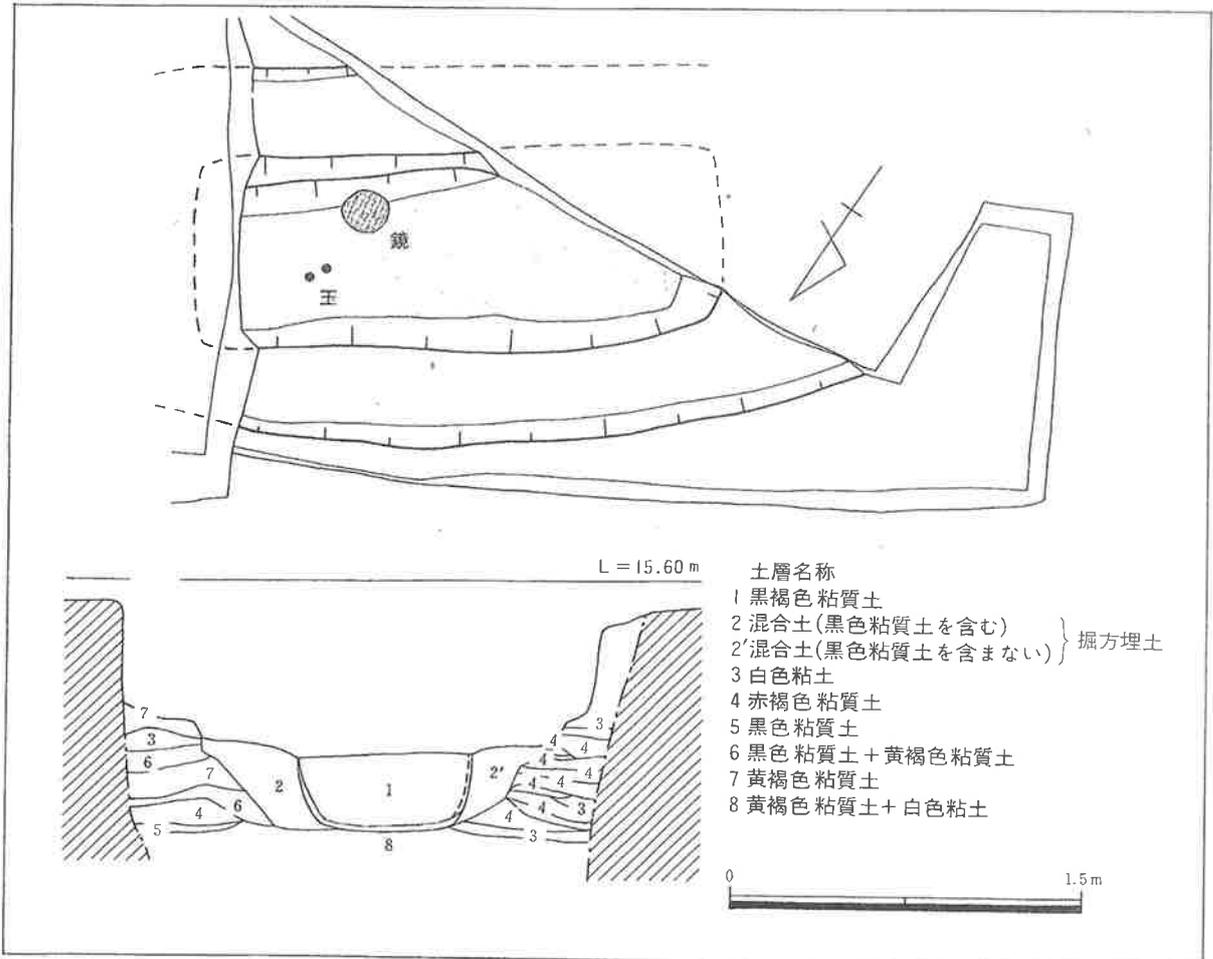
- |             |
|-------------|
| 25. 卯内尺古墳   |
| 26. 裏ノ田4号古墳 |
| 27. 小丸1号墳   |
| 28. 妙法寺2号墳  |

福岡市教育委員会, 1986  
 『那珂八幡古墳』『福岡市埋蔵文化財調査報告書』第141集



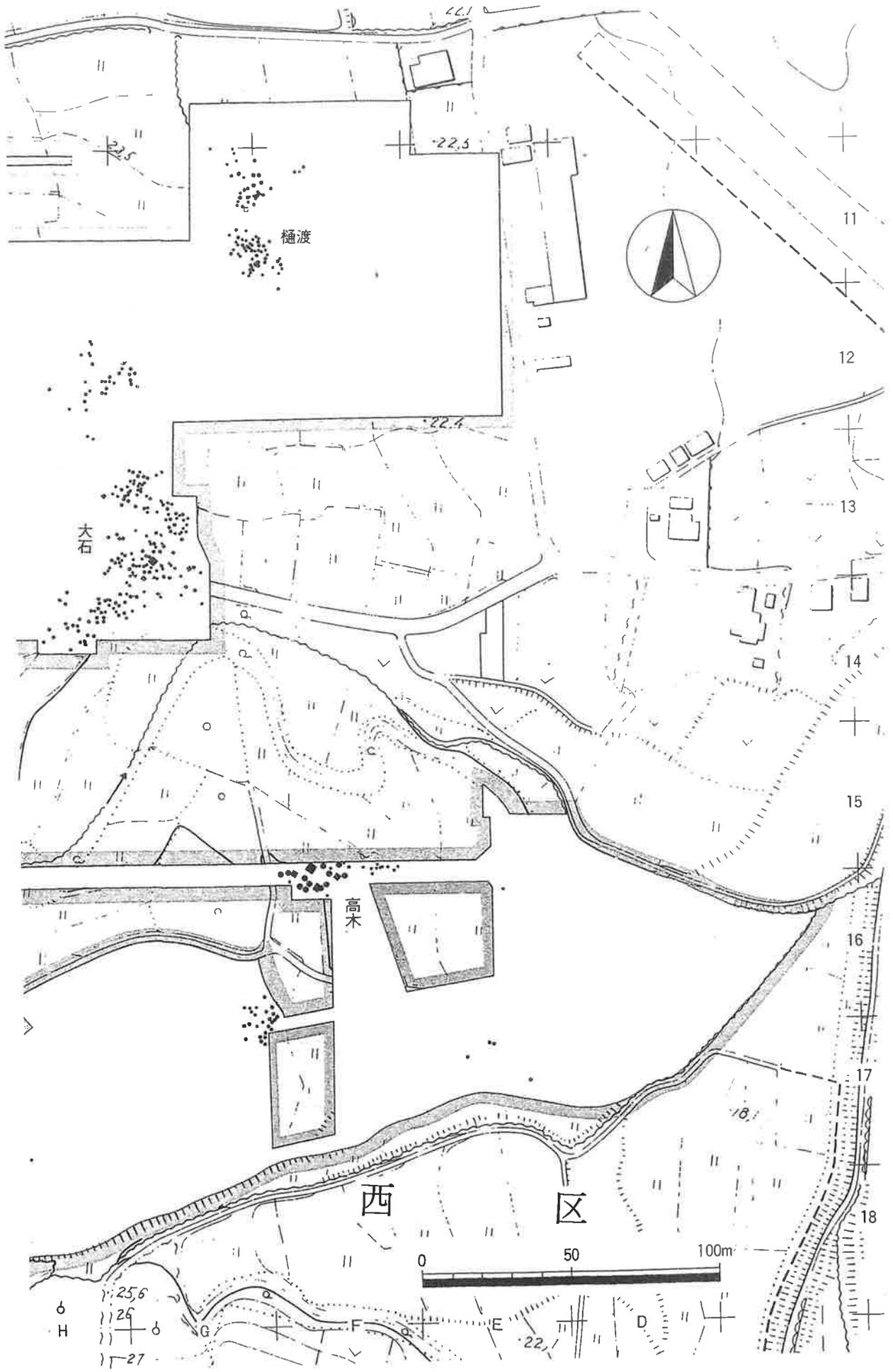


福岡市経済観光文化局埋蔵文化財課『那珂八幡古墳確認調査(那珂遺跡群  
第175次調査)現地説明会資料, 2019年2月16日

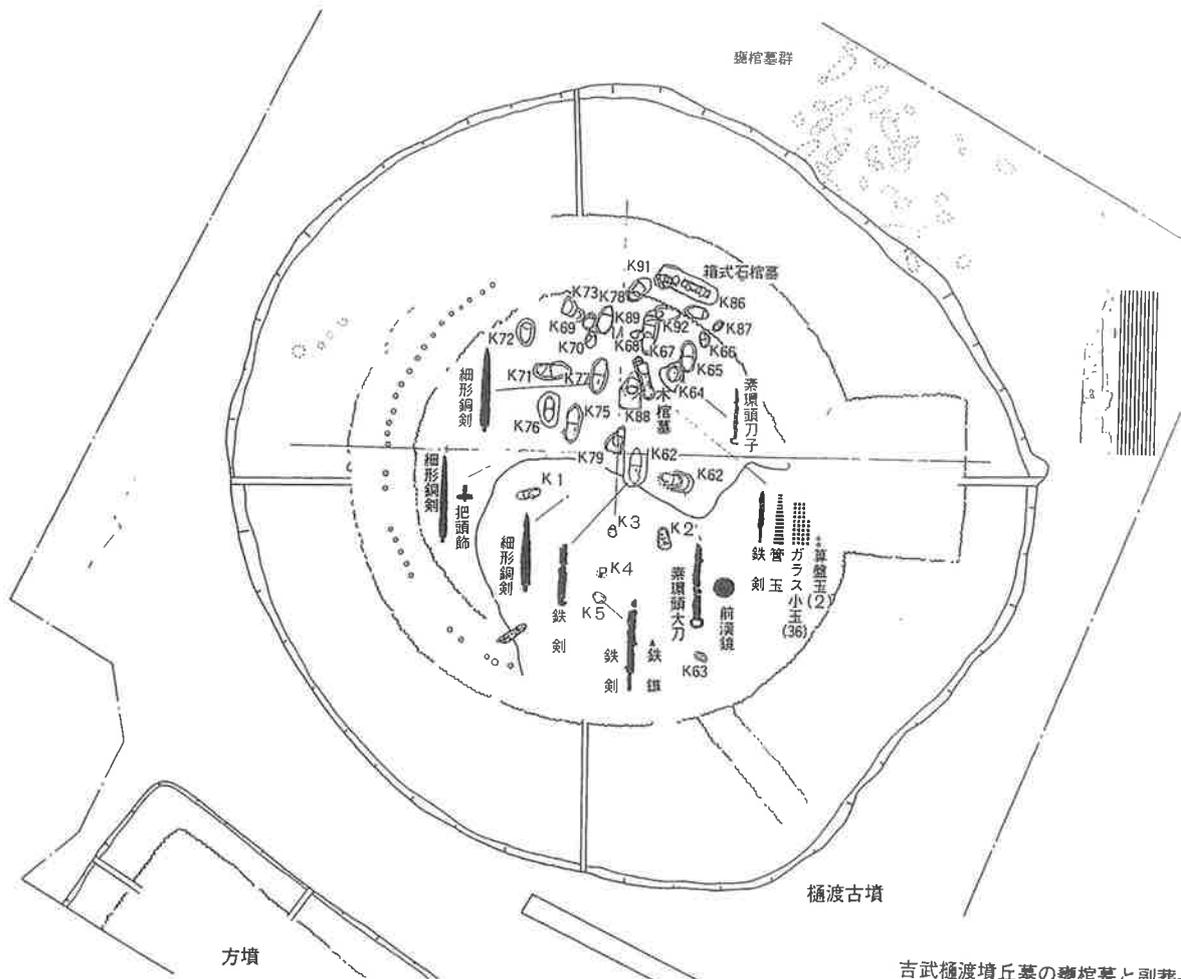


2号主体部平面図と断面土層図

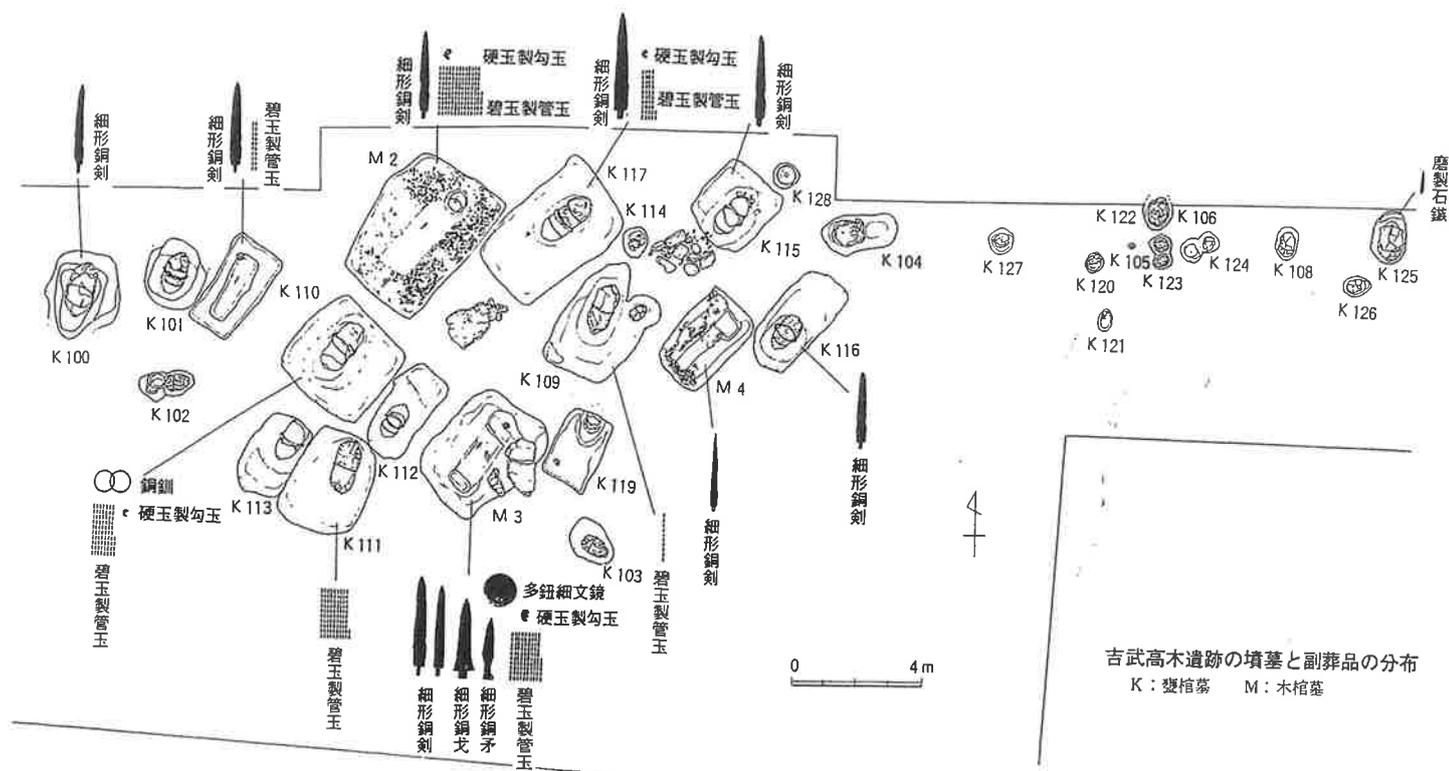




福田市立歴史資料館, 1986 『特設展図録 早良王墓とその時代』

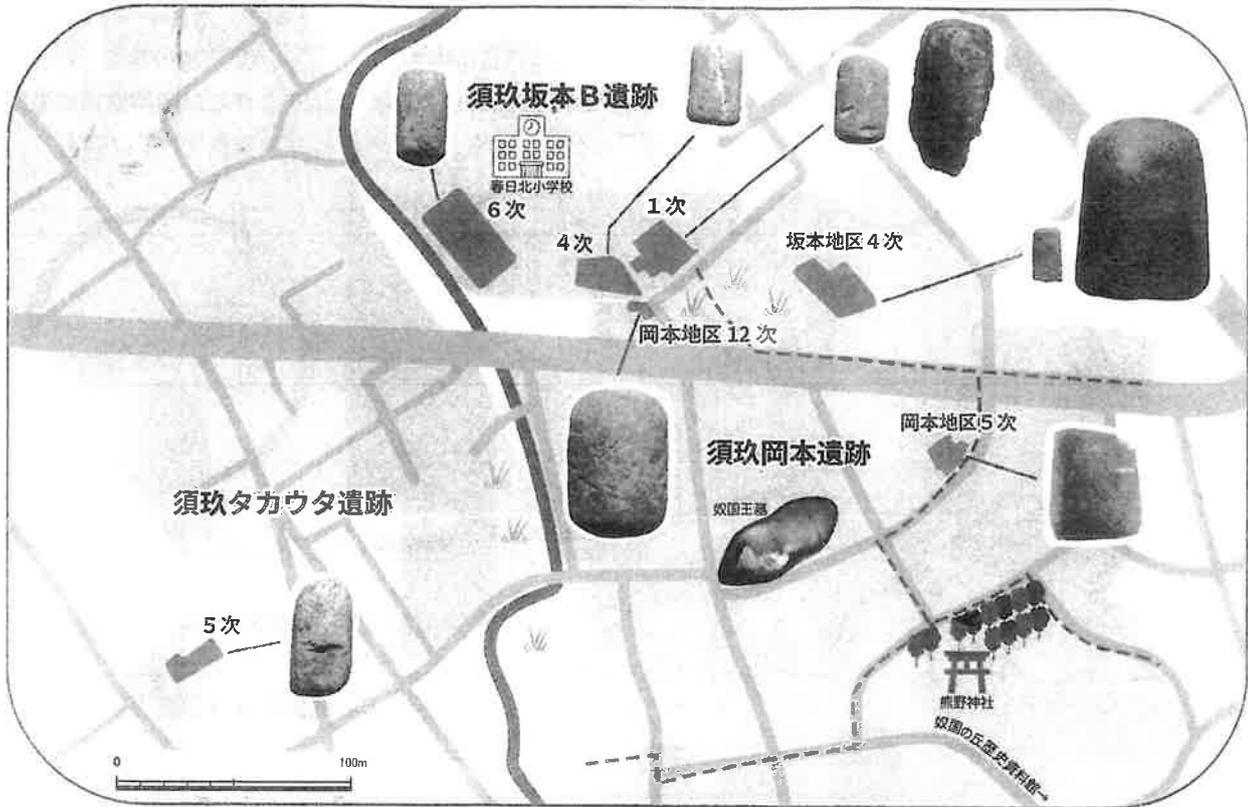


吉武樋波墳丘墓の甕棺墓と副葬品の分布

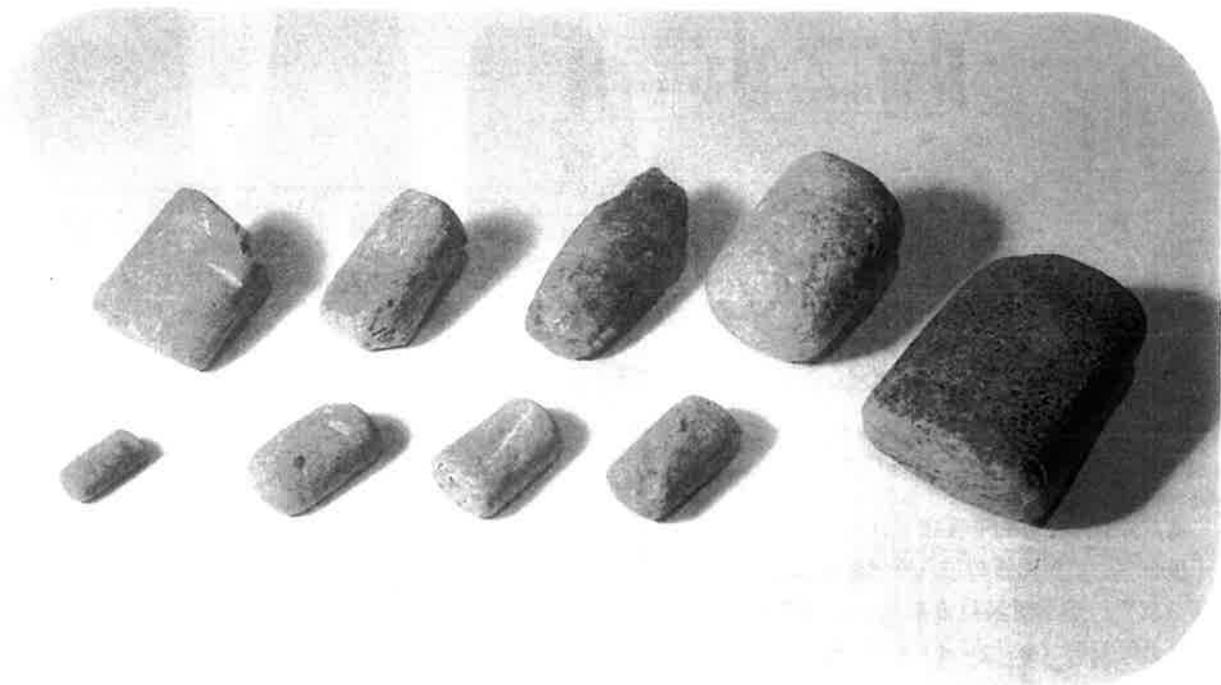


吉武高木遺跡の墳墓と副葬品の分布  
K: 甕棺墓 M: 木棺墓

# 須玖遺跡群にもあった天秤権



須玖権の出土地点



須玖権 (春日市教育委員会)

### 博多区的那珂八幡古墳

# 「ヤマトに服属」 定説に一石が

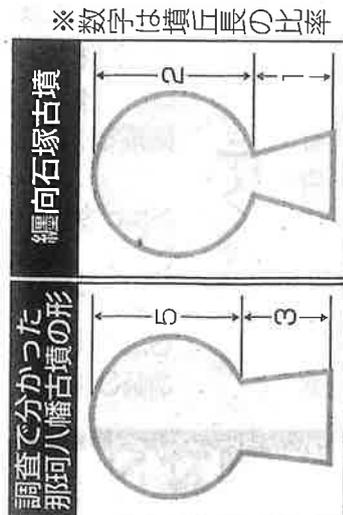
古墳時代開始期前後(3世紀)に造られたとみられる前方後円墳・那珂八幡古墳(福岡市博多区)の形が北部九州独自のものであることが、同市の発掘調査で明らかになった。最古級とされる回古墳の形状が近畿とは違ふことから、ヤマト王権に服属した証として地方の勢力がヤマトをまねて前方後円墳を築造したとみる古墳時代像に一石を投じることになりそうだ。



那珂八幡古墳の後方部の発掘現場

これまで那珂八幡古墳は「纏回型」とみられていた。纏回型は、古墳時代開始期前後に近畿で築造された纏回石塚古墳(奈良県桜井市)のよう、後円部と前方部の長さの比率が2対1で、前方部の端が広がっている形状の古墳を指す。全国に分布し、ヤマト王権の勢力の広がりを示すとされてきた。

しかし、今回の調査により那珂八幡古墳は、従来とはされていた全長は約86に伸び、後円部と前方部の比率が5対3となることが確認された。前方部の端の幅も30程度で想定約45よりも狭く、纏回型と異なっていた。福岡市埋蔵文化財課の久住猛雄さ



## 3世紀ごろ築造 北部九州独自の形状

は「近畿の古墳をまるまるコピーしたのではない」と話す。一帯は魏志倭人伝に出てくる奴国の中心部で、回古墳に埋葬された人物は奴国に関わる有力者と考えられる。

似た形状を持つ古墳は、北部九州の戸原土塚古墳(福岡県粕屋町)や赤塚古墳(大分県宇佐市)などがあるとされるが、いずれも那珂八幡古墳よりも新しい。香川県に分布する開始期前後の前方後円墳も近畿とは形が違い、「讀岐型」と呼ばれることがある。こうしたことから、九州大の溝口孝司教授(考古学)は「古墳時代の初期は近畿が地方を支配していたわけではなく、近畿と各地の首長たちによるネットワーク連合という形だったのではないかと、各地域の古墳に独自性があった可能性がある」と話している。

那珂八幡古墳の現地説明会は16日午前10時から開催される。(古墳英訳)



